

金 光 学 園

やっなみ

2025.7



271号



高校入学式



中学入学式



ゆずり葉の会

令和7年3月17日（月）、義務教育修了式と、中学ゆずり葉の会が行われた。修了式では早川響くんが総代として卒業証書を受け取り、赤澤那奈さんが中学生生活を振り返り、友人や家族、後輩への感謝の気持ちを述べた。

その後、生徒会役員の引継ぎ式である「中学ゆずり葉の会」が行われた。1年生は「合唱」と「呼びかけ」、2年生は「体育会のダンス」と「呼びかけ」という、旅立つ先輩に対する温かな出し物が行われた。その後、いよいよ3年生による出し物が行われた。有志による「ダンス」や「寸劇」から始まり、家族、後輩、先生への感謝の手紙が紹介された。続いて、トーンチャイムの演奏をバックミュージックにし、谷川俊太郎の「生きる」の詩の朗読を行った。その後、中学3年生全員による合唱の「We are the world」では、素晴らしいハーモニーを披露し、会場からは感動の声が上がった。その後も、有志による「バンド演奏」とともに感謝の手紙を読み上げ、最後の全体合唱へとつなげた。その間には、ユーフォニウムとトランペットの演奏が行われ、ラストは全体合唱「ハナミズキ」で締めくくった。最高学年の中学3年生らしい、素晴らしい出し物であった。



「成長と期待」

中学から本学園にお世話になり、本年度で6年目。いよいよ息子が卒業を迎える年になりました。

本学園に入学を決めた理由は、文武両道を掲げられていたことと、オープンキャンパスに参加させていただいた際に校内ですれ違う生徒さん全員が大きな声で爽やかに挨拶をしてくれたことです。とても良い環境だと家族全員で感じ入学を決めていただきました。中学生のときは感染症が流行した時期ではありましたが、積極的に部活動へ参加し同級生の友人や先輩にも恵まれ、楽しい学園生活を送ることが出来たと感じております。多くの友人が出来たことで息子が「本当にこの学園に入学して良かった。」と言っていたことが今でも嬉しく印象に残っております。中学3年の後半からは別の学校に通っていた姉の影響と学校からのご指導もあり、大学進学について息子自身が考え始めるようになりました。高校生になると勉強をするようになり、成績や評定を意識し、勉強へのモチベーションを上げるために家族旅行を兼ねて、東京や大阪の大学を見学するようになりました。息子の大学選びの基準は、都会で一人暮らしができて姉より偏差値の高い大学です。その基準は今も変わらず、模試の結果を見ながら一喜一憂し、自分にとってより良い環境やより偏差値の高い大学へ入学できるように勉強に励んでおります。

我が家では子供たちに対してできるだけ自分のことは自分で決めるということを推奨しております。この考え方は多くの失敗が発生します。ですが、その幼い頃の失敗が大事だと思っています。人生を左右するような失敗が、子供の頃にはあまり起きないと思い、子供たちに判断や選択をさせています。子供の頃は大きな失敗だと感じたことも、大人になり振り返ってみると人生の中では小さな失敗だったと感じることの方が多いのではないのでしょうか。大事なのは失敗をした後の行動や考え方だと思ひ、親として子供たちを見守っています。

高校卒業まで残り数か月、一緒に生活できる貴重な時間を父親として楽しんで、息子とその友人たちの更なる成長を期待しております。

（金光学園やつなみ保護者会副会長）

佐藤 史成

目次

巻頭言	1
金光学園 中学・高等学校 入学式	2
道(40)	11
メタセコイア	13
活躍する卒業生	14
活躍おめでとう	16
学園生の故郷	17
会長就任挨拶	20
友愛セイルご協力のお願ひ	21
やつなみ保護者会のページ	22
会報	24
やつなみ保護者会地区会	25
法人決算の概要	26
中学生になって	30
KGフレンドシップ	32
中2学年集会	34
中3オーストラリアグローバル研修	36
高1一日旅行	42
中1合唱発表会	44
第7回ラッドフォード・カレッジ姉妹校交流	47
第10回イギリス短期語学研修	49
留学生紹介	51
ある日のホームルーム	52
高3人権講演	53
芸術鑑賞会	56
オープンスクール	60
令和7年度大学入試結果	62
生徒会活動	63
学園だより	66
教室の窓から	74
編集後記	70

令和7年度

金光学園 中学・高等学校 入学式

4月8日、入学式が挙行された。中学は午前9時から101名が、高校は午後1時30分から151名が、保護者・教職員の祝福を受けて新たな出発をした。

国歌斉唱、校長式辞の後、中学は田中絵菜さんが、高校は木村泰喜くんがそれぞれ「願いのことば」を力強く述べた。続いて学校法人理事長田淵美賀雄氏の挨拶、金光教を代表して教務総長橋本美智雄氏の祝辞があり、次に保護者を代表して中学は西泰行氏、高校は雀部あゆみ氏の挨拶があった。終わりに、中学では学園歌紹介、高校は学園歌斉唱で式の最後が締めくくられた。

校長式辞

校長 金光 道晴



皆さん、本日は入学式、誠にめでとうございます。駅周辺や校庭の桜も皆さんの入学式をお祝いしてくれているように咲き誇っています。春の穏やかな今日の良き日に、101人の新入生を迎え、麗しく中学入学式が挙行できますことは誠に嬉しいことであります。

教務総長様をはじめ、金光教関係のご

来賓の皆様には、一昨日に春のご大祭の第三日を仕え終えられたばかりのお忙しい中を、またやつなみ保護者会の皆様をはじめとするご来賓の方々には、年度初めの公私ともご多用の中を、お練り合わせ頂き、ご臨席を賜りまして誠にありがとうございます。心から御礼申し上げます。

はじめに保護者の皆様にお慶びを申し上げます。お子様のご両親にとって、大切なわが子であると同時に、私どもにとっても大切な学園の子となったわけでありまして、保護者の皆様と共に、お子様の健やかな成長を見守り「あいよかけよ」育んでまいりたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

私達は、新制服を着た新入生の皆さん

をお迎えできることは何よりの喜びであります。どうぞこれからの六年間の学園生活で、様々なことにチャレンジして、大きく成長して頂くと思います。

金光学園は様々なことに取り組むことができる学校ですが、私は第一にはしっかりと日々の勉強に取り組んでもらいたいと思います。2月と3月に2日間のスクーリングを行いましたので、授業にも少し慣れたかもしれませんが、小学校と違って、担任の先生が大部分の授業を受け持つのではなく、中学校では英語や数学や国語などをはじめ、各教科を専門の先生が、皆さんの授業を担当することになります。色々な先生との出会いやその授業を楽しむに、しっかりと勉強に取り組んで頂きたいと思います。

部活動でも頑張ってもらいたいと思います。学園には多くの運動部や文化部がありますが、皆さんは入部したい部活動は決まっていますか。今公立の中学校では、部活動の地域移行が進められていますが、金光学園ではあくまでも部活動は大切な学校教育の一貫として大切にしたいと考えています。まだどの部に入ろう

か決まっていない人は、この22日の新入生歓迎会での部活動紹介を参考にしたり、24日・25日の一日体験入部に参加したりして、入部を決めるのもいいと思います。また、本校は学校行事も盛んです。体育会やほつま祭と呼ばれる文化祭も盛大に行われます。生徒達自身が自分たちの手によって、主体的に作り上げていくもので、とても楽しい行事です。

さらにグローバル研修や国際交流も盛んです。一昨年度までの数年間はコロナで、海外との交流もほとんどストップしていましたが、コロナが五類に引き下げられて以降は、多くの生徒たちが外国に行ったり、海外からの生徒を受け入れたり、交流が再開しました。この春休みにも、13名の生徒が、10日間オーストラリアのキャンベラの姉妹校に行きましたし、イギリスでの2週間の語学研修には15名の生徒が参加しました。

どちらもホームステイをしながら、多くの事を学び貴重な体験をして、つい先日帰国してきたところです。この2月には中学3年生は全員、オーストラリアのインド洋を望む西海岸のパースで10日間のグローバル研修を行いました。大変

素晴らしい経験をし、大きく成長して帰ってきました。皆さんも中3になると行くことになります。

このような学園生活の中で、皆さんには勉強・部活動・学校行事やグローバル研修などの諸活動に積極的に参加し、取り組んで頂きたいと願っています。しかし、それらの活動を通して、私が一番大切にしたいと思っていますことは金光学園の合言葉の実践であります。

皆さんは入学前から合言葉については何度か聞いた見たりしたことがあると思いますが、後ろの保護者の皆様には見えにくいかもしれませんが、えんじ色のバックに金色の字で合言葉の「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」が書かれています。これと同じものが、皆さんがこれから勉強するすべての教室にかかげられています。

この言葉は、生徒の皆さんにだけ、守ってもらおうというものではありません。私たち教職員も、保護者の方々も、そして卒業生にいたるまで最も大切にしている言葉で、私たちは校訓とか校是と言わず、「合言葉」と呼んでいます。

金光学園ではこの「人、自分、そして

物をたいせつ」にし、世の中のお役に立つ人に育っていただくことを願いに、にちの教育活動を進めています。

どうぞ新入生の皆さんには、これから六年間かけてこの合言葉の中身をしっかりと身につけていただきたいと思っています。そして、人・自分・物を大切にできる人、合言葉を実践できる人になって頂きたいと願っております。

ところで、今日この後のH.Rで皆さんには、金光教の教祖様のみ教えが書かれているこのような日めくりを入学の記念品としてお渡しします。昨日の七日の日めくりの言葉は、「信心する者は 木の切株に腰を下して休んでも 立つ時には礼をいう心持になれよ」という言葉が書いてあります。たとえ木の切り株といえども、お世話になったものに対する感謝の気持ちを忘れてはならないということなのです。今日の八日には「食物はみな人の命のために天地の神のつくりあたえ給うものぞ」という言葉が書いてあります。これには続きがあつて「何を飲むにも食べるにも有り難くいただく心を忘れなよ」という言葉が続き、食前訓として金光学園では食事の前に唱える言葉で

もあります。

先週の3月31日には皆さんにも案内させてもらっていました。金光教本部では勸学祭が仕えられました。4月から新入生や新しい学年に進級していく児童や生徒が、ここまで神様から日々おかげを頂いて来たことへの御礼と、新年度を迎えるにあたって、ここからも元気で成長させて頂くことをお願いするという祭典でした。

皆さんの中には参拝した人もいましたが、その勸学祭で祭主をなさった和田という先生が、次のようなお話をされました。「私達は神様から命を頂いて生きています。手をあげることも足をあげることも、心臓を動かすことも、トイレで大小便が出来ることも、お風呂に入れることも、眠ることも、実は自分だけの力でできることは一つもないですね。」

毎日毎日当たり前のように神様がお働き下さっている、今日はそのことに改めてお礼を申すお祭りなのです。私達一人ひとり、神様から『心』を頂いて生ま



れてきています。その心は例えばお父さんやお母さんが病気になる時、『早く元気になって欲しい』と願う心、あるいは友達が困っているときに『何とか助けてあげたい』という人を助けたい、

役に立ちたいという思いやりの心です。この思いやりの心の事を『神様の心』と書いて『神心』と言います。全ての人は『神様の心』を頂いているのです。

また毎日頂くご飯、お米一粒にしても太陽、空気、水など神様の働きを頂いて成長してきたものです。地球上にある全てのものは、みんな神様から命を頂いているのです。だからこそ全ての人、物に『ありがとうございます』とお礼を言い、大切にすることが大事であります。

4月から新しい学年、学校で、神様から大切な命を頂いているもの同士、思いやりの心をもって大切にしたいしながら、毎日の生活を送ってもらいたいと思います。……このようなお話を聞かせていただきました。

どうぞ皆さんも、いつも感謝の心を忘れずに、勉強はもちろん、行事や部活動など色々な活動に一生懸命に取り組み、心身を鍛え、豊かな人間関係を養い、友達と仲良くして立派な金光学園の生徒として成長していくようお祈りし、終わりにもう一度「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」の合言葉を申し上げて式辞といたします。

理事長挨拶



田淵 美賀雄

天地の息吹を体いっぱいに浴びて、晴れて金光学園中学校に入学された生徒の皆さん、誠におめでとうございます。また、この金光学園を選んでいただき、誠にありがとうございます。心から御礼申

し上げます。

保護者の皆様におかれましても、今日までお子様を愛情深く育ててこられ、晴れて入学の日をお迎えになりましたこと、お慶びのことと存じます。心よりお祝い申し上げます。

また、金光教務総長におかれましては、日頃から温かいご理解とご支援を賜っておりますこと、誠に有り難いことに存じます。厚く御礼申し上げます。

さて、わが金光学園では、「真に世のお役に立つ人材の育成」を建学の精神として、「学・徳・体一本の全人教育」に取り組んでおります。世界各地における紛争や、国内外の経済格差、人権侵害や差別、環境破壊など、これまでの世界秩序の枠組みが大きく変わろうとしている今こそ、人間として尊い行いを為すことができる全人教育が必要とされています。「人間として尊い行いを為す」ということは、国家や民族、老若男女の区別なく、人類の一員として尊い行いを実践するということでもあります。

「学・徳・体」つまり、学問に励み、徳を身につけ、体を鍛えて、社会のお役に立つ人間にならせていただくというこ

とです。そして、それを身につけるための日々の実践として、学園には「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」という合言葉があります。この合言葉は、生徒、保護者、教職員、卒業生、みんなの合言葉です。この合言葉の実践によって、おのずから、人間として尊い行いを実践できる人格が形成されていくのです。

これから先、学園生活を日々送っていく皆さんには、建学の精神と合言葉をもって、みずから進んで、社会のお役に立つ生き方を求めているいただきたいと思ひます。

また、保護者の皆様におかれましては、生徒の皆様と共に学園に入学し、共にお育ちになるという心で、お子様方を見守り慈しみ育てになって、親子ともども、学園生活を意義深いものにしていただきたいと存じます。

私は、金光教の教会の会長でもあります。教会では、毎日朝・昼・晩、御祈念をさせていただいております。その祈りの中身の一つには、「金光学園の教職員、生徒、園児、保護者、卒業生一同がそれぞれ立ち行くおかげを蒙られますように」

という祈りがあります。もちろん、私だけではありません。教主金光様も校長先生もお祈りくださっていますし、全国の教会でもお祈りくださっています。金光学園はその祈りの中にあり、生徒の皆さんは、その祈りの中で育てられるわけです。誠に有り難いことに存じます。

金光教 教務総長挨拶

橋本 美智雄



皆さん、ご入学おめでとございます。最初に、保護者の皆様に心からお祝いを

申し上げます。さらに、日頃からひとかたならぬご厚情をいただいております地域の皆様方に、厚く御礼申し上げます。また、学校運営、学校教育の上にご尽力をいただいております学校法人関係者の方々、校長先生をはじめ教職員の皆様にあらためて御礼申し上げます。

金光教の教祖金光大神のお広前に、ちよど皆さんぐらいの年頃の大西秀（ひで）という娘さんが参拝していました。

ある時、お友達が今で言う「推し活」中の男性を見に行きたいと、秀さんを誘いました。一緒に行って帰る時間になっても帰りたくないと言うので、先に帰ることにしました。すると、その友人の父親から「うちの娘を一人だけ置いて帰るようなことをするなら、もう一緒に遊ばないでくれ」と、たいへんに怒られたそうです。友人のわがままに振り回されただけなのに怒られるなんてと、秀さんは腹が立って腹が立つてしかたがなく、教祖様のお広前にお参りしてお願いをしました。

すると教祖様は「腹を立てな。立った腹は、そこへ置いておいて帰りなさい」とおっしゃり、つづいて「向こうから謝っ

て来るから、苦にしくなくてもよい」と言われて、帰ってみると、友人の母親が、「さつきはすまなかった。腹を立てないでくれ」と謝りに来てくれたそうです。また教祖様は、秀さんに、いつもこのように言われていました。「悪い心を持つなよ。人に悪いことを言われても、根に持つてはいけない」と、それを聞いて秀さんは「それでも、向こうが悪い心を持つてくれば悪い心になります」と言いました。すると、「それでも、悪い心を持つてはいけないよ、よい心を持つていうように」と言われたそうです。

皆さんがこれから学生生活を送る中で、誰かに腹が立った時にはこの言葉を思い出してみて下さい。「悪口を言われても、根に持つてはいけない」というのは実際には難しいことです。そこで、こんな工夫をされた方もあります。「腹が立つ時には、なるだけその場を外れる」ということです。やかんで湯を沸かす時には、やかんをコンロの火にかけたままだと沸騰し続けますが、コンロからはずしておけば自然に冷めてゆきます。つまり腹が立つ相手とはいったん距離を置いて、冷静になってから会うことにするというこ

とです。

それでも、心がざわつく時は、皆さんの家の神棚や仏壇の前に座って手を合わせてみることです。ここ、金光町には金光教本部のお広前がありますから、そこで手を合わせても構いません。人間はみ



んな神様の前では同じであります。腹を立てている相手も、自分自身も同じ人間であります。そう思つて「立った腹を置いていく」つもりになれば、心は少し落ち着くと思います。

電気ポットなら湯が沸けば自動で切れます。腹が立ったら、自分でそのスイッチが切れるような、そういう働きが人間には本来備わっているのです。それを金光教では「神心」と呼んでいます。相手が悪い心になっても「よい心をもつように」と言われたのは、皆がこの「神心」になつて物事を受け止めるようにと願つておられたからです。「神心」になつて、お互いを認め合い、許し合うことで「よい心を持つ」ことが、争いのない平和な世界をもたらすための第一歩になると信じています。

どうぞ、皆さんがここからこの学び舎において、元気に明るく、そして仲良く楽しく有意義に過ごしていただけますようにと、祈らせていただきます。本日はまことにおめでとございます。

私たちの願い

中学・新入生代表 田中 絵葉



春の訪れとともに、私たち新入生101名は、今日、金光学園に入学しました。

このように素晴らしい式で、温かく迎えて下さり、誠にありがとうございます。金光学園の長い歴史の中で、新たな一員として歩み始められることを誇りに思っています。

私たちが生きるこれからの時代は、変化が激しく先を予測することが難しい時代と言われていると思いますが、この金光学園には、「人をたいせつに、自分をたいせつに、物をたいせつに」という合言葉があります。人とのつながりを大切に努力を続け、身の回りのものに感謝し、日々の学園生活を大切に過ごしていきたい

いと思います。

三年後、私たちはどんな姿になっているでしょうか。これまでの130年の歴史を胸に、131年目の新しい時代に挑戦し、充実した三年間を過ごし、卒業の時には胸を張れるように努力してまいります。

最後になりましたが、校長先生をはじめ先生方、先輩方、温かいご指導をどうぞよろしくお願いいたします。

中学・保護者代表挨拶

西 泰行



先ほどご紹介に預かりました西泰行と申します。大変僥越ではございますが、新入生15名の保護者を代表いたします。一言ご挨拶を申し上げます。

メタセコイアの新芽が色づき始めるこ

の良き春の日、先生方をはじめ、学園関係者の皆様のご尽力により、このように立派な入学式を挙行していただきましたこと、心より感謝申し上げます。

子供たちが努力の成果を結び、この日を迎えることができたことは、保護者として喜びに満ちています。そして、卒業生として多くのかわいらしい後輩と出会えることができ、大変嬉しく思います。

新入生の皆さん、そしてそのご家族の皆様、本日は誠におめでとうございます。

私自身も29年前、この金光学園に新入生として入学しました。入学当時、新しい環境への期待と不安が入り混じった気持ちを抱いていましたが、学園生活を通じて、多くの学びや成長、そしてかけがえない友情を築くことができました。

金光学園では、「学・徳・体」をバランスよく育む全人教育を大切にしています。特に、道徳を重視した教育方針の中で育まれる「他者を尊重し、共生する心」は、私が学園生活を通じて身につけた最も大切な価値観のひとつです。

学園時代、私は柔道部に所属し、県大会で優勝し県代表として全国大会に出場するなど、貴重な経験を得ることができ

るきっかけとなりました。また、先生方の温かな支えのおかげで、無事に卒業することができました。

卒業後、在学中に迷惑をかけてしまったことへの恥ずかしさから、学園に足を運ぶことを避けていました。しかし、社会に出てそれぞれが責任ある立場になったころ、学園時代に築いた友人や先輩・後輩たちと仕事を通じて再会する機会が増えていきました。

そのような中、仕事を通じて再会した旧友との地域活動をきっかけに、再び学園との関わりが生まれました。4年前、NPO法人と協力してキャリア教育プログラムを実施し、その活動を通じて現役の生徒たちと対話する時間を持つことができました。この経験を通じて、青春時代に支えてくださった先生方や学園で築いた友人とのつながりが、現在の私の人生の支えとなっていることを改めて実感しました。

その時、特に印象深かったのは、中学1年生の担任の先生が、私との再会を家族のように喜んでくださった姿です。このようなつながりは、私にとってかけがえないものとなっています。

新入生の皆さんには、これから始まる学園生活の中で、信頼できる大人や一生を共にできる友人をぜひ見つけていただきたいと思っています。

結びになりますが、金光学園のさらなる発展と、「人をたいせつに、自分をたいせつに、物をたいせつに」という学園の合言葉が皆さんの心に深く根付き、新入生の皆さんが充実した学園生活を送られることを心よりお祈り申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。

新入生願いのことば

高校・新入生代表 木村 泰喜



遥照山に命芽生える季節となった今日の良き日、新入生15名は、晴れて金光学

ました。しかし、高校2年生の頃、疲労骨折をきっかけに部活動を離れることになり、大きな転機を迎えました。その状況に悩んでいた時、当時の校長先生から「金光学園の生徒となった以上、そのつながりは親子の縁と同じ」という励ましの言葉をいただきました。この言葉が私の心に深く刻まれ、新たな目標を見つけ



園高等学校の一員となれることに、心から感謝いたします。

私は三年前に金光学園中学校に入学し、とても充実した三年間を過ごすことができました。初めは慣れない環境でうまくやっていけるのか不安な気持ちがありました。自分の好きなこと、やってみたいことを見つけ、知識を身につけながら様々な挑戦をすることができました。

時には失敗をし、困り果てたこともありましたが、何がいけなかったのかを考え、次に活かすことでたくさんの成長を遂げることができました。それは、いつも愛情を注いであげた家族や個性あふれる友達、情熱的で頼れる先生方など多くの人々の支えがあったことです。このことを忘れず、これからの高校生活でも失敗を恐れず、自分の夢や目標に向かって進んで行きたいと思っています。

高校生活において、私には二つの目標があります。

一つ目は植物について深く知ることです。私は生き物、特に植物に興味があります。その多種多様な生存戦略に大自然の力を再認識させられます。そして自然豊かな金光町は植物学を学ぶにはうって

つけの環境です。豊かな自然環境を活かし、フィールドワークや実験を通じて、植物の生命力を活用する研究に取り組みたいと考えています。

二つ目はものづくりのレベルをあげることです。私は小さい頃からものを作るのが好きで、絵を描いたり空き箱でロボットを作ることによりがいを感じていました。与えられたものを使い続けるだけでなく、今の世界にはない新しいものを創造できる人間になりたいと思っています。中学校での三年間は気になったこと、興味を感じたものには躊躇わず飛びつきました。その知的好奇心を忘れず、高校生活の三年間では、アイデアを現実に行ける力を身につけます。特に、中学の時に挑戦し失敗した二足歩行ロボットの制作を成功させたいです。

これからの三年間、私たちは幾度となく挫折を味わうことがあるかもしれませんが、しかし、それでも決して諦めることなく、それぞれの夢に向かって力強く歩み続けます。最も身近な存在である家族、そして校長先生をはじめとする諸先生方、どうか温かく見守り、支えてください。まずようお願い申しあげ、願いの言葉とさせていただきます。

せていただきます。

高校・保護者代表挨拶

雀部 あゆみ



先ほどご紹介に預かりました雀部と申します。

皆様、挨拶が長いのは得意ではないでしょうから、簡単に挨拶したいと思います。

はじめに、ご来賓の皆様、ご多用の中、ご臨席賜りまして、まことにありがとうございます。そのうえ、心のこもったお祝いや励ましのお言葉をいただき、改めて、親子ともに、身も心も引き締まる思いでございます。

また、先生方、このような素晴らしい入学式を挙行してくださり、まことにあ

りがとうございます。

生徒の皆さん、保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。

生徒の皆さん、高校の三年間も頑張ってください。「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」で、いろいろなことに挑戦してください。私たち保護者、先生方は、皆さんを見守っている応援団です。大変な時は、私たち応援団に相談してください。また三年後、卒業式で、成長した皆さんにお会いできるのを楽しみにしております。

結びになります。

先生方、そしてご来賓の皆様には、親子ともどもご指導いただきたく、心よりお願い申し上げます。また、会場にいらっしゃる皆様のご健康、ご多幸と、金光学園のさらなるご発展をお祈りいたします。

本日は、まことにありがとうございます。

道

(40)

金光 道晴

「見えないから 見えたもの」―竹内昌彦先生

今回のテーマの「見えないから 見えたもの」という言葉は、今年80歳になられた全盲の竹内昌彦先生の著書の題でもあり、先生の講演の題でもあり、映画の題でもあります。竹内昌彦先生と金光学園のご縁は、先生が岡山盲学校の教頭をなさっておられた30年近く前から始まり、今も毎年高校3年生の人権教育として、「見えないから見えたもの」という演題で講演して頂いています。今年も5月30日に来ていただき、高3の生徒に話をさせていただきました。

先生は今から34年前の46歳の時から講演を始められ、これまで3000回以上の講演をなさり、講演に来られた方は30万人以上にもなるそうです。講演は山形県を除いて46都道府県でされたそうです。先生はこれまで講演をしてきた中で「毎年講演に呼んでくださる学校が2校あるのですが、京都の私立中学校と金光学園の2校です」と教えてくださいました。

昨年はOHK(岡山放送)によって「FNSドキュメンタリー大賞出品作品」として「フォルティシモ―79歳全盲の先生はあきらめない」というドキュメンタリー番組が作られ、5月にOHKテレビで放映されましたので、ご覧になった方もあるのではないかと思います。その番組には、今春卒業した昨年の高3

の生徒への講演の様子も映っていました。

既に竹内先生のことを本を読んだり、講演を聞いたり、映画やテレビ報道を見て、ご存じの方も多いとは思いますが、改めて、先生と学園のご縁や先生の事をこの「道」で紹介させて頂こうと思います。私が初めて竹内先生のお話を聞かせて頂いたのはもう30年近く前になりますが、金光学園で行った教職員の研修会でお話を聞かせて頂いたのが初めてのことでした。今でも忘れませんが、約1時間半のお話で何度も涙が溢れて止まりませんでした。もちろん私だけではなく、周りの先生方も同じでした。講演後で教職員の中には、是非竹内先生のお話を生徒にも聞かせたいという声もあがり、翌年高校1年生の入学時合宿に来て頂き、生徒たちはお話をさせて頂くことができましたが、やはり全生徒に聞かせたいということで、その時の高1が卒業した平成13年から、毎年1学期にお越し頂き、高校3年生にお話しただくようになりました。そのような中で、今から10年数年前、「命の大切さ」を説き続けられる竹内昌彦先生の映画を作ろうという声があがり、映画化を実現するための実行委員会が立ち上げられました。そして映画制作に最低限必要な経費を2000万円と設定し、その経費を「目指せ1万人サポーター!あなたの募金が映画になる」というスローガンを掲げ取り組まれました。その時のチラシには次のような文章が書かれていましたのでその一部を紹介します。「拝啓竹内先生。目の不自由なものとせず、日本の問題と向き合う。あなたの生き方に勇気づけられました。今日日本は、いろんな問題を抱え



ています。そんな日本に『二石を投じる』ため、有志が『竹内先生の半生を知って欲しい』と立ち上がりました。この映画を製作し、全国の皆様に見て頂くことで、日本中に、気づき

と勇気と元氣と涙と感動を届けることが出来ます。竹内先生が講演活動を通じて今まで訴えてこられたことを、より広く、いつまでも伝えていくことを可能にするための映画化です。先生あなたに出会えたことに感謝いたします」とありました。そのチラシの裏面には岡山県出身の故星野仙一さん（当時楽天の監督）、あさのあつこさん（作家）、木村正明さん（当時ファジアーノの代表）や白鵬さん（当時横綱）をはじめ多くの方々の「映画化を実現しよう」と応援のことが掲載されています。そしてみんなの協力によって、その映画が完成したのは平成27年だったと思いますが、映画に出演した人はボランティアで出演された人がほとんどでした。先日6月30日に日本陸上競技連盟の会長に就任されたマラソンの有森裕子さんもその一人でした。そしてこの映画は耳の聞こえない方にも、目の見えない方にもわかるように工夫されていました。つまり字幕付きで映像内容の音声解説付きの映画として制作されたのであります。

金光学園やつなみ保護者会とは映画完成の数年前に竹内先生

と聞いていますし、一緒に写った写真も見せていただきました。先生は現在「ヒカリカナタ基金」という途上国の目の見えない子供を救うという目的でNPO法人を立ち上げられ、理事長として、その手術費用の支援をなさっておられます。1000人の子供の目を救うという強い決意でその目標に取り組んでおられ、昨年までに800人を超える子供の目を救い、もうすぐ目標の1000人に手が届くまでになったとおっしゃっておられました。今年お会いした時には、ついに目標の1000人を達成できたとの嬉しいお話を伺いました。目標は達成されたのですが、まだまだ元気で活動できる限り、目の見えない子供を救いたいと、なおこの活動を続けていくとおっしゃられているのであります。今年80歳になれましたが、金光学園にも「どうぞ来年も、再来年も、いつまでもお元気で出でいただき、生徒たちにお話を聞かせてください」とお願いを申し上げたようなことであります。お帰りになる時に、先生を校内で案内した生徒達にカードをあげるからといって名刺サイズのカードを渡されていましたので、私にも1枚くださいとお願いをしていただきました。そのカードの表面には「親切にしてくれてありがとう」と文字と点字で書かれていました。裏面には「あなたの一声が目が見えない人の手助けに」「何かお手伝いすることはありますか」「近く



とご縁ができました。平成24年（2012年）の年度初めに開催される金光学園のやつなみ保護者会総会の記念講演として、竹内昌彦先生にお越し頂き、保護者へ話をして頂いたのであります。その時の講演内容は、保護者会教養シリーズ41に残っています。保護者の方々も大きな感動を受けた講演会となりました。もちろん学園の保護者会としても竹内先生の映画化の募金には協力をされましたし、教職員も当時の高校3年生も募金をさせて頂きました。

そのころも今も竹内先生は講演でいつも言われるのが、「点字ブロックの上に物を置かないで」という言葉でしたが、それを知ったある大企業の社長さんが、「点字ブロックの上に物を置かないで」というシールを大量に作成され、目の不自由な方たちのための呼びかけを積極的され、先生も喜んで頂いたのですが、実はその社長さんも当時学園の保護者の方であつたので、保護者の方々とも様々なご縁が出来たようなことであります。保護者会だけではなく、奥様である糸子さんの実家は鴨方町で、かつて金光教の有志によって結成された「青い鳥点訳グループ」の活動にもお二人とも参加して頂いていたことがあるという、様々なご縁のある先生であられます。

先生は、岡山盲学校を定年退職されてからは学校や企業や自治体などでの講演活動を中心に様々な活動をなさっておられる中で、講演の謝金や自叙伝の売り上げとともに有志のカンパ協力も得て、モンゴルの盲学校建設に尽力されたのであります。この話は当時横綱であつた白鵬さんの耳にも入り大変喜ばれた

に寄って声をかけてください」という言葉があり、このカードを頂いて、改めて障がいを持つ人への思いやりの心をにしなければならぬと思つているところであります。



令和6年度岡山広告賞銅賞受賞

金光学園が、6月25日にANAKラウンプラザホテル岡山で行われた授賞式にて、第61回岡山広告協会新聞広告賞の銅賞を受賞しました。

昨年迎えた創立百三十年の記念事業として行った山陽新聞社主催、各社協賛による「金光学園創立130周年記念特集」が評価されての受賞となりました。



選択を正解にし、人生の伏線回収をする

歌手・俳優

頼経 遙（高62回卒）



で学習できるので、中学3年生という早い時期から大学受験を見据えて自身の進路を考える機会がありました。

私は幼い頃からの夢であったミュージカル俳優になりたいという想いと、母親が音楽大学出身だった影響で、進路を私立の音楽大学一校に絞ろうとしていました。また、仲のいい友人たちは難関私立や国立を目指して進路を固めつつあり、すると私も「彼女たちと一緒に勉強で切磋琢磨したい」と思うようになりました。しかし音楽大学の受験勉強もまだ始めていなかった私が、勉強を皆と同じ水準でやりきれぬだろうか、やはり受験は音大一校に絞ろうか？と悩んでいた時に、担任の先生に言われたのが先の言葉です。「かっこいい」って言葉に私はめっぽう

に来てくださる方々がいらつしやるのも事実で、そんな方々から頂くファンレターに楽しんで頂けた旨が書かれているのを見ると、大変なことも多い業界ですが報われた気持ちになり、明日からの活力となります。

そして最近では後進指導の機会をたくさん頂いており、生徒さんの頑張りが全てではありますが人気作品への合格をサポートすることもできました。振り返れば大学4年生当時、将来、自身の現場経験をアウトプットする際に感覚的なものではなく科学的・論理的に伝えられるようになりたいと思い、大学院に進学することを決め、研究テーマを「身体と発声の関係」にしました。芸芸大学を目指したのも元々は先ほど述べた「皆と受験勉強したい」という理由だったため、教育学には興味はなく、入学後はとにかくミュージカル俳優・演奏家になりたい一心だった私が、大学院に進学し教育学の修士号を取り、現在トレーナーとしてもお仕事を頂いているなんて、進路を決める時には考えてもいなかったことです。芸芸大学に進学したことの伏線回収をし

「音楽も勉強も両方できたらかっこいいじゃん。」

これは中学3年生当時、進路に悩んでいた時に担任の先生から言われた一言です。金光学園では、中高6年間の学習カリキュラムを5年間で終えて最後の1年間は受験に向けて各自に合ったスタイル

にお仕事をさせて頂いております。おそらく皆様もご存知である、夢と魔法に溢れた東の王国や、超元気特区な西の大手テーマパークなどで歌い踊っていました。芸能界と聞くとテレビに引つ張りだこと幼き頃はイメージしておりましたが、一口に芸能界と言っても実はジャンルは様々です。そんな芸能界の一部に属して頑張っております。

パフォーマーとして常に意識していることは「一期一会」ということです。テーマパークは、多くの方々がその日の思い出を作り、その場所に来られます。家族や友達や大切な人との思い出を作り、いらしている方もいれば、ひとりで好きな世界観を堪能しにいらつしやる方もいます。来場者のほとんどは私という人間を目的にその場にいらしているわけではありません。その方々がその日を楽しんでいるのだと振り返った時に、どこかのピースに自分がチャッとも居れば本望だし、居なくてもきつとどこかで空間の一部にはなっていると信じて、その一瞬の出会い、一期一会を大切にしています。しかし、私のパフォーマンスを楽しみ

弱い。でも十四・五歳のモチベーションってそんなもんじゃないでしょうか（笑）そして時を同じくして、母親が持ち帰ってきた演奏会のパンフレットに国立大学の教育学部音楽科出身のオペラ歌手を見つけました。「これだ」と稲妻が走ったような感覚を人生で初めて体感しました。国立大学の教育学部音楽科を受けるならば、好きな音楽ができるのはもちろん、金光学園の仲間と国数英理社の授業を同じようなモチベーションで受けることができると思えました。勉強と音楽の両方を後押ししてくれた先生、一緒に勉強を頑張り、体育の授業では私にボールが回らないようこっそり配慮をしてくれた級友たちには深く感謝しています。（音大受験生は突き指の可能性のある球技はNGとされています）そしてちょっぴり自分を評価するならば、弱音を吐かず両方をやり切った自分に、選択を正解にする意地があったのかと思っております。東京芸芸大学に進学後、学部3年生の頃からオペラとミュージカルの舞台上に立ち始め、今現在も有り難く舞台やコンサートなどショーエンターテイメントを中心

ているように思えますし、ここでも選択を正解にできたのかと思います。そしてこれまでの様々なことが、進路選択の時に背中を押し選択を尊重してくれた金光学園の環境に帰結するような気がします。長い人生で見たときに大学受験がゴールでもないし全てではないと大人は言いますよね。そして（もういい歳の大人である）私自身そういう実感は当然あります。でも一方で、個人的にはこの受験時の選択が今の私の人生でなかなか大きなウエイトを占めているのも事実です。いや、結果として大きなウエイトを占めさせたとも言えます。選択が正解かはその時点では誰にも分からなくて、後の自分の行動で正解にしていけることが大切だと考えます。その正解にするぞという意志と行動力が、すなわち未来を切り拓き、夢を実現する力だと思えます。最後に、感謝に溢れる母校の後輩の皆様が輝かしきものになるようお祈り申し上げます。そして、これからもパフォーマーとして精進してまいりますので、どこかで皆様とお会いできますことを願って。

【略歴】

岡山県出身。東京学芸大学在学中よりオペラやミュージカルの舞台を踏む。同大学院修了、教育学修士号取得。関東最大手テーマパークショーメインシンガー・アクターを務める他、USJ、新国立劇場オペラ「カルメン」「トゥーランドット」、舞台「ペルソナ3」シリーズ、「王室教師ハイネ」「The Musical II」などに出演。

2018年よりアンサンブル・コノハに加入し、これまでに1stアルバム「ただいま」（表題曲 作詞・松井五郎、作曲・森山良子）、日本野球機構オフィシャルソング「Dream Park 〜野球場へようこ〜」をリリース。5月28日には2ndアルバム「クラスで聴くジブリ名曲選 Echo」を発売。また、大手芸能事務所でヴォーカル講師を務め、人気作品メインキャスト合格者を輩出する。



活躍おめでとう

《高少林寺拳法部》

全国大会出場

3月26日（28日）にかけて、岡山県で行われた第28回全国高等学校少林寺拳法選抜大会に、高校少林寺拳法部高3 天野蓮太郎くん・西山和志くん・渡邊康稀くん、高2 寺崎心菜さんが出場しました。



高3の西山和志くんは「選抜大会で念願だった決勝の舞台に立つことができました。しかし、決勝では全国から集まった他の拳士との力の差に愕然とし、心の中には悔しさが残らなかった。

次の目標は最後のインターハイでの入賞だ。選抜の悔しさをバネに、基本に忠実な演武を心がけ、日々の練習を重ねたい。これまで良き先輩、後輩に囲まれ、そして何より少林寺拳法の魅力と技術を教えてくださった顧問の先生と、切磋琢磨

《音楽部コーラス》

全国大会で銅賞受賞

3月21日に福島県で行われた第18回声楽アンサンブルコンテスト全国大会に、音楽部コーラスの高3、高2女子16名が出場しました。



「当日まで部内でインフルエンザが蔓延し、福島県に行くまで、全員での練習が全くていけない状態だった。不安が多かったにもかかわらず、部員の前向きな気持ちや周りからの支援のおかげで、初の銅賞に入賞することができた。

高3として私達は引退するが、後輩たちは周りの人に恩返しできるような演奏をこれからもしていつてもらいたい」と語るのは部長の高3原瑞希さん。

皆さんのこれからの活躍に期待しています。

ここから通っています 学園生の故郷

広島県福山市

高1の母 日野 なつき

今年度より偉大なる先輩方を育て上げられた金光学園に通わせていただくことになりました。息子が県外である金光学園に行きたいと思ったきっかけは、全日本バレーボール高等学校大会、通称 春高の試合を拝見したところから始まりました。小学校からバレーボールを始め、中学部でもバレーボールを熱心に取り組んできました。自分の未来を想像したとき、春高で見た金光学園の先輩方は、雲よりはるかに高い存在でした。しかし、自身も全国大会を経験し、高校生活でも大きな舞台でバレーボールをしたい、もっとレベルの高いプレーがしたいと考えた息子は金光学園の一員となり、憧れる先輩方とともに全国の地へもう一度行きたいと考え金光学園に入学を決めたようです。入学して一ヶ月経ちますが大変熱心に教えて下さる先生、そして

憧れた先輩方から直接ご指導していただくことの有難さを日々感じ、本当に金光学園に入学して良かったと良縁に感謝しております。

また、この度福山市を紹介する機会を与えて下さり感謝致します。福山市は広島県の最東部、県内では広島市に次ぐ中核市となっており、人口は54万人程度です。特産品としては日本一の生産量として、全国シェアの約7割を占めるくわいや鯛竹輪やガス天などの瀬戸内海の魚を使用した海産物も豊富です。個人的ですが、次に記述する鞆の浦にある阿藻珍味での竹輪や海老煎餅などの手作り体験はおすすめスポットです！是非一度体験されることをお勧めします。

さらに、瀬戸内海国立公園を代表する鞆の浦は『崖の上のポニョ』のモデルとなったともいわれており、常夜燈や神社、町家など江戸時代から残るものが多く、映画の中の一場面を体感できるスポットもたくさんあります。古くは万葉集にも詠まれ、塩待の港としても栄えました。2018年5月に日本遺産にも認定され、国の「重要伝統的建造物群保存地区」、ユネスコ「世界の記憶」と合わせて三つの評価を受けています。5月終わりには毎年弁天島花火大会



も開催されます。

また、「鞆の浦から平成いろは丸」に乗り5分で行ける瀬戸内海国立公園の中心にある無人島、仙酔島は仙人が住んでいたという伝説があり「仙人が酔うほどに美しい島」という由来があります。江戸時代の学者・頼山陽は仙酔島や瀬戸内海の美しさを見て「山紫水明」という言葉を生み出したようです。仙酔島内には、宿泊施設や海水浴場・キャンプ場の2コースのハイキングコースも整備され、これからの季節楽しめること間違いありません。また、仙酔島に

高知県安芸市

中1の父 田村 昌士

高知県東部に位置する安芸市（あきし）は、太平洋に面した風光明媚な町です。南には黒潮躍る雄大な海が広がります。北には四国山地の緑豊かな山々が連なります。森林率は89%にも及び、自然の恵みが溢れ、市の中心となる平野部では、人々の暮らしとともに農業が盛んに営まれていきます。澄み渡る海と川は、訪れる人々を魅了し、特に景色の良い海岸線はウォーキングやサイクリング、釣りに最適です。夜には満天の星空が広がり、都会では味わえない幻想的な風景を楽しむことができます。夏になると、川では鮎釣りやゴリ・川エビ獲りが盛んで、この清流の中で子どもたちも元氣いっぱい泳いだり手長エビを獲ったりして楽しめます。

戦国時代、安芸市は安芸氏の本拠地として栄えましたが、安芸國虎が長宗我部元親との戦いに敗れ、その後、江戸時代には安芸城を中心とした城下町として繁栄し、現在もその面影を残す町並みが広がっています。特に土居廓中（どいかちゅう）は、武家屋敷跡や白壁の蔵が点在し、生垣や練堀

は古代から自然が手つかずのまま残っているため、パワースポットとしても有名です。そして、福山といえばバラの町としても有名ですが、1945年空襲により市街地の約8割が消失してしまつた福山市の復興への歩みの中で「戦災で荒廃した街に潤いを与え、人々の心に和らぎを取り戻そう」



と1950年代半ばに市民が約千本のバラ苗を植え始めたのが「ばらのまち福山」の始まりです。2016年には百万本のばらの町を実現しています。ばらを通じて思いやり、やさしさ、助け合いの心を表す「ローズマインド」を広め、世界に誇れるばらの町をみんなで作ることを活動しています。ばら祭りはその活動の一つです。

福山駅前には、全国で唯一の天守北側壁面総鉄板張りの城である福山城があります。福山城は日本の百名城にも選出される水野勝成築城の名城です。築城四百年を迎え2022年8月に天守外観復元をはじめとした「令和の大普請」が完了しました。

福山駅より一望することが出来るので、福山駅にお立ち寄りの際には是非拝観してみてください。

拙い紹介となりましたが、この夏是非福山を体験していただくきっかけになれば幸いです。高校生活が息子にとって、充実し未来にとって前向きな3年間となることを願っています。親子共々初高校生活で、たくさんの失敗はあると思いますが多くの出会いと経験に感謝し日々精進してまいります。3年間よろしくお願い致します。

等が連なる武家町特有の景観を形成しており、岡山県矢掛町矢掛宿と同じく国の重要伝統的建造物群保存地区（全国に129箇所しかない）に選定され、歴史の香りを感じさせる街歩きが楽しめます。また、近くにある「野良時計」は、時計がまだ珍しかった明治時代に旧家の地主が部品全てを自作して作り上げた大きな時計で、目の前のヒマワリ畑と共に安芸市のシンボル、観光名所となっています。



さらに、「伊尾木洞」は、洞窟の奥へ進むと溪谷へと続き、周囲には国の天然記念物に指定されたシダ群落が広がっており、約40種類ものシダ植物によって、まるで太古の時代にタイムスリップしたかのような景色が広がります。洞窟内は年間を通して涼しく、幻想的な雰囲気があるため、癒しのパワースポットとして多くの観光客が訪れています。

安芸市は、農業と漁業が盛んな町であり、特にナスの生産量は全国トップを誇ります。温暖な気候と豊かな土壌に育まれた安芸のナスは、艶やかでみずみずしく、全国の市場でも高く評価されています。ミヨ



ウガやピーマン、柚子なども特産品であり、秋の柚子の収穫シーズンは町全体が爽やかな香りに包まれます。港町ならではの風景として、早朝に浜の近くで見られる釣りめんじやこの漁船群や海岸線に並ぶじゃこの天日干しは、風情があります。地元の産直市には、新鮮な魚や野菜、郷土料理の田舎寿司が並び、地元の人や観光客で賑わっています。安芸市はまた、多くの偉人を輩出した町でもあります。三菱財閥の創始者・岩崎弥太郎は、坂本龍馬と共に幕末の時代を生き抜いた人物です。彼の生家には、幼少期に天下雄飛の夢を託して日本列島を模した石が庭に並べられており、今も見学が可能です。さらに、童謡作曲家・弘田龍太郎は「浜千鳥」

「雀の学校」「春よ来い」など、多くの名曲を世に送り出し、彼の作品は今でも愛され続け、子どもから大人まで幅広い世代に親しまれています。さらに、国産プラネタリウムの開発をした五藤齊三氏の功績も素晴らしい。彼は日本を代表する光学機器メーカー・五藤光学研究所の創始者であり、多くの天文台や科学館に五藤の天体望遠鏡が使われています。世界中のプラネタリウム

のシェアもトップであり、天文学の発展に大きく貢献しました。

安芸市で生まれ育った我が家の子どもたちは、この豊かな自然の中でのびのびと育ちました。春になると岸壁で釣竿を垂らしてはアジやイワシを釣り、夏には近くの川で泳ぎ、魚や手長エビを獲り、時にはウナギを捕まえました。また、農家さんの畑で野菜を収穫させてもらったり、自然に囲まれた暮らしの中で様々な経験をしてきました。地域の人々との交流も深く、新鮮な野菜や果物をいただくたび、春から夏にかけては数種類ものタケノコやイタドリ、秋には柚子や柚子を丸絞りにした柚酢（ゆのす）、冬にはイノシシ肉やシカ肉を分けていた

だくなど、地域の人々の温かさを感じてきました。私たち夫婦の古里は岡山ですが、仕事の関係で親戚も知り合いもない高知県に移り住み、安芸も14年目となりました。この春、金光学園中学に進学した長男は、親元を離れ、祖母（私の母）と二人で暮らし始めています。慣れない土地で戸惑う事も多いと思います。皆さま、どうぞ温かく迎え入れてやっていただければと思います。よろしく願いいたします。

金光学園やつなみ保護者会 会長就任挨拶

日頃よりやつなみ保護者活動にご理解、ご協力いただきありがとうございます。

令和7年度 金光学園やつなみ保護者会 総会にて承認をいただき、会長を皆様よりお預かりいたします。藤井秀和と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

昨年度から副会長という立場で、やつなみ保護者会に携わらせていただいております。子どもが中学校に入学したばかりの中、役員のお声があり、金光学園のことを右も左も判らぬまま、活動することに不安がありました。ほつま祭をはじめ様々な行事や取り組みに参加いたしました。その際に先輩保護者の方々と教職員の皆さんと話す中で、取り組みの意義や熱意に触れることができましたし、何よりも皆さんとの活動が有意義な時間となりました。また、昨年度は創立130周年という節目の年でありました。この歴史ある金光学園が地域に根差した発展をしてきた中で、やつなみ保護者会の連綿と紡いできた歩みを感じることが出来ました。

本年度は創立130周年を終えて、また新たな一ページを迎えるにあたり、金光学園が更に魅力を高め、多くの人材を世に輩出すると共に、子ども達にとって一生の友と出会い、かけがえない青春を過ごす学び舎としてあり続ける為に、保護



金光学園やつなみ保護者会
会長 藤井 秀和

者として出来る支援をしていきたいと考えております。

金光学園の「子とともに育つ」という言葉に想うことは、子どもの成長に伴い、大人の階段を登る我が子を、我がことのように寄り添い、本人の選択を信じて、そつと支える。また、共に悩み、励まし、喜びを分かち合う。その過程を通じて親自身も学び、成長することと思っております。そういった経験、このやつなみ保護者会の横の繋がりで相談し、共感し合える環境は、保護者にとってもありがたい場所だと感じております。このように教職員と保護者が協力し合い、子ども達を支える機会を歴代の関係者の皆様が築き発展してこられたことに、この言葉の重みを感じております。

結びに、保護者の皆様には、日頃からやつなみ保護者会活動へのご尽力、心より感謝申し上げます。今後ともご理解とご協力を賜りますよう、お願いいたします。やつなみ保護者会 会長就任のご挨拶とさせていただきます。

ほつま祭

「友愛セール」ご協力をお願い!

拝啓

晩夏の候 極暑というにはふさわしい毎が続いております。本誌が届く頃には期末試験も終わり、そして子ども達には楽みな夏休みへと続きます。保護者の皆様におかれましては、平素よりやつなみ保護者会へのご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、今年のほつま祭は9月20日（土）、21日（日）に当会主催の友愛セールを開催いたします。

本年度も多くの保護者の皆様の心がこもった手作り作品が多数出品されます。また、予約販売では、金光学園にゆかりのある会社様を中心に新たな選りすぐりの商品を選定し、お値打ちの価格で提供させていただきたいと考えております。昨年に引き続きオンラインで注文を予定しており、ほつま祭の1か月前を目安にメールやチラシにてご案内させていただきますので、多くのご購入をいただければ幸いです。更に、好評のキッチンカーも多数出店してもらい、沢山の方に楽しんでもらえるように計画しております。

なお、「友愛セール並びにキッチンカー」で得られました収益金は、金光学園の生徒の皆さんの環境整備の充実に充てられます。

是非とも友愛セールの趣旨と意義をご理解いただき、保護者の皆様のご協力をお願い申し上げます。

敬具



やつなみ保護者会のページ

指導部

部長 佐藤 史成

令和7年度の指導部は三役3名、評議員9名、合計12名で活動します。

主な活動内容は、地区会の開催について、街頭・列車補導等について、生徒に関わる問題点などについての協議と検討を予定しております。

地区会の開催については、6月下旬から7月末までの期間で全部の地区が地区会の開催を予定しております。地区によって開催日時や開催場所が異なります。保護者の皆さまは所属する地区会に開催情報をご確認いただきご参加ください。地区会では、やつなみ保護者会の皆さまが新学期を迎えて心配なことや改善したいこと、また地区独自の問題などについて学年等の枠を超えて話し合うことで、よりよい学園生活が送れることを目指して

各地区の評議員様を中心に開催をしております。指導部はその運営支援活動をおこないます。

街頭・列車補導等について、指導部の評議員さんと先生方とで協力しながら年間スケジュールに沿って街頭・列車補導等の活動を実施させていただきます。学園に通う生徒は遠方から通学をしている生徒が多々います。特に中学に通う生徒さんは慣れない電車での移動や最寄り駅までの移動と大変なことと思います。生徒が予期せぬトラブルに巻き込まれぬよう学園、保護者共に指導をしていければと思います。

生徒に関わる問題点の協議等については、子ども達の成長と安心して学園生活を過ごせる環境を作れるように先生方と保護者会で情報の共有や活動の連携をしながら進めていきたいと考えます。指導部の活動について、引き続きご支援とご

教養部

部長 渡邊 将弘

令和7年度の教養部は9名で活動してまいります。主な活動は

- ①「やつなみ」の発行
 - ②教養シリーズの発行
 - ③研修旅行の企画・運営
 - ④サークル活動の紹介・参加
 - ⑤研修会の参加
- 以上を予定しています。
- 昨年度は268・269(合併号)・270号のやつなみ発行を致しました。

「やつなみ」は、学園の近況が詳しくまとめられたもので、保護者会の連絡・報告・子どもたちの行事・読書などの感想や式辞など学校の取り組みが記載されていますので、お子様から受け取られましたら是非お読み下さい。

また、昨年度の研修旅行は徳島県の鳴門市にある、アオアヲ ナルト リゾー トでのランチバイキング、そして世界の名画を陶板で再現した大塚美術館に行っ

てまいりました。バスの道中での会話や現地で交流を通して、保護者同士でのつながり、先生と保護者とのつながりを育むことが出来ました。本年度も引き続き交流の場を通してつながりの輪を大きく育んでいければと思っております。

最後にサークル活動を紹介させて頂きます。

現在「コーラス」「ステンドグラス」「パッチワーク」「茶道」「アクセサリー」「ハン ドクラフト」「和賛心の会」の7つのサークルがあります。

本年度も楽しく有意義に活動され学年を越えた友人の輪も広がっております。年度途中からでも参加が可能なので、皆様奮ってご参加ください。

本年度も教養部は学年の輪を越えて有意義に活動して参りますので、ご支援とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

庶務部

部長 村田 晶子

今年度、庶務部は26名で活動をスタートしました。主な活動は「ほつま祭」に

向けての「友愛セール」です。

「ほつま祭」とは、一般的に言われる「文化祭」のことで、毎年行われる二日間で何千人もの来場がある大変盛大な行事であり、保護者会からは「友愛セール」や「キッチンカー」、人気商品をお買い得価格で購入できる「予約販売」などを行い、その収益を子どもたちの教育環境に役立てます。

その「友愛セール」に向けて、ほつま祭までに7回の「準備会」を行います。準備会には庶務部の役員のみならず、会員でしたらどなたでも参加でき、制服リユース販売のサイズ分けやアイロンがけ、遊休品の回収や値付け、簡単手作り品の分担作業(型取り・裁断・直線縫い)などご自身のできることをするというもので、気楽に参加でき、他学年の保護者との交流ができる、いろいろな情報交換の場にもなっています。手作り品では、制服をリメイクして、「トートバック」「エコバック」「コインケース」など、どこかに制服の布やロゴが使われていますので、当日はぜひお楽しみにご来場ください。

みんなができることをできる範囲で行い、集まったみんなが楽しみながら準備できる会となっています。ぜひみなさまもお友達をお誘い合わせのうえ、一度来てみて下さい！

子どもたちだけでなく、保護者も一緒に楽しめる「ほつま祭」にしようと思っています。保護者もみんなで盛り上がりつついきたいと思います。ほつま祭「友愛セール」会場にぜひ足をお運びくださいますようお願い致します。



会報

金光教大祭接待奉仕 3月30日、4月3・6日の3日間に行われた金光教春の天地金乃神大祭に評議員さんが奉仕した。全国からの代表の参拝の方々の接待奉仕で大変感謝された。

総会 4月26日(土)に令和7年度総会が開催された。1限に授業参観、2限に学級会、10時45分からはつま体育館で総会を行った。総会では、①各部からの会務報告、②令和6年度会計報告及び監査報告、③役員改選が議事に挙げられ、③についてはこの総会で決定された。この結果、令和7年度の新三役が次の通り選任された。(敬称略)

新三役		
監事	副会長	会長
中川由記 三島大尚	渡邊将弘 長谷川絢の 佐藤一平 橘高文彦	藤井秀和 香西哲郎 佐藤史成 村田晶子

第1回全役員会・評議員会 5月7日(水) 全役員会では、全役員と評議員の任務内容の確認、年間予定等について説明があった。続く評議員会では、各専門部役員の決定後、各部長・副部長が選任された。(敬称略)その後、7年度の活動方針、予算案、地区会等について検討し承認された。今年のはつま祭での友愛セールの具体的な取り組みや地区会開催の確認、金光教接待奉仕の分担決定などの協議も行った。

指導部	部長	副部長
佐藤史成	松永登紀子	
教養部	渡邊将弘	友田直子
庶務部	村田晶子	山村春薫

第2回評議員会 6月4日(水)各専門部役員名簿の確認後、年間活動内容について各部別協議を行い、全体で共有した。その後、今年度の友愛セールについて、遊休品・手作り品販売や制服リユース、予約販売(物品・手作り品)などを実施する計画が決定した。

諸会合
○5月20日浅口市青少年育成活動協議会
金光支部理事会。友田評議員出席。

○6月10日岡山県高等学校PTA連合会理事會。藤井会長出席。
○6月16日岡山県私立中学高等学校保護者会連合会総会・歓送迎會。藤井会長出席。

○6月20日岡山県広域特別補導協議会笠岡支部総会。渡邊副会長出席。

○6月23日岡山県高等学校PTA連合会総会・研修會。藤井会長出席。

○6月26日玉島警察署管内子どもを守る母の会総会。田村評議員出席。

○7月4日県PTA指導者研修會。佐藤史成副会長出席。

○7月11日中四国高等学校PTA連合會松江大会。藤井会長・橋高副会長・長谷川副会長・渡邊副会長出席。



○7月12日第75回社会を明るくする運動浅口推進大会。藤井会長・渡邊副会長・友田評議員・松永地区役員出席。

令和7年度 やつなみ保護者会 地区会

No.	地区	日時	会場	出席教員
1	岡山以东	6月28日(土)14:00~16:00	岡山県生涯学習センター	成田 小畑 内村 ショーン
2	倉敷第1	7月5日(土)18:30~20:30	ライフパーク倉敷	西山秋 高田 松本
3	倉敷第2	7月12日(土)18:30~20:30	くらしき健康福祉プラザ	佐藤径 天野浩 吉永
4	倉敷第3	7月20日(日)10:00~12:00	金光学園 大ホール	守分 西山龍 山本幸 塚原
5	玉 島	7月6日(日)10:00~12:00	玉島市民交流センター	宰相裕 石田亜 土井 妹尾
6	富田 長尾 船穂 真備	7月12日(土)16:00~17:00	金光学園 セミナー室	小橋 吉森 瀬戸
7	竹 八重 占見 占見新田 地頭下	7月12日(土)13:30~15:30	金光学園 中ホール	奥野 中島 有馬
8	大谷 須恵 佐方	7月11日(金)18:30~19:30	金光学園 中ホール	水岡 石井 内村彩
9	鴨 方	7月16日(水)19:00~21:00	浅口市中央公民館	友田 久野
10	六 条 院	7月10日(木)19:00~21:00	浅口市健康福祉センター	籠崎 北川
11	寄 島	7月26日(土)19:00~21:00	サンパレア 交流サロン	佐藤洋 小松原
12	里 庄	7月5日(土)10:00~12:00	里庄町立図書館	大西 坂口
13	笠 岡 東	6月28日(土)19:00~20:30	サンライフ笠岡	宰相タ 藤原 松田
14	笠 岡 西	7月12日(土)18:00~19:30	笠岡市労働者福祉センター	内田 山路 平岡
15	笠 岡 北	7月5日(土)19:00~21:00	北川公民館	山本澄 森下 亀山
16	井 原	7月12日(土)19:00~21:00	アクティブライフ井原	田中 角南 ベン 福岡
17	福山第一・三	7月19日(土)19:00~21:00	福山市生涯学習プラザ	石田崇 土谷 平川
18	福山第二	7月4日(金)19:00~21:00	福山市市民参画センター	山下 長谷川 水野
19	福山第四A	7月26日(土)18:00~20:00	緑丘交流館	岡田 鳥越 井上
20	福山第四B	7月19日(水)19:00~20:30	伊勢丘交流館	東山 園田 中村
21	福山第五	7月16日(水)19:00~21:00	福山市北部市民センター	戸田 細川 長江
22	松永・尾道・ 三原以西	6月28日(土)15:00~17:00	福山市西部市民センター	塚田 久繁
23	止 宿	手紙でのアンケート実施		日笠 平賀

貸借対照表

令和7年3月31日

資産の部		負債の部	
科 目	本年度末	科 目	本年度末
固定資産	2,157,969,173	固定負債	407,552,028
有形 固定資産	1,957,686,070	流動負債	108,438,639
特定資産	200,000,000	負債の部合計	515,990,667
その他の固定資産	283,103	純資産の部	
流動資産	132,884,814	科 目	本年度末
資産の部合計	2,290,853,987	基本金	3,940,526,384
		第1号 基本金	3,768,526,384
		第3号 基本金	100,000,000
		第4号 基本金	72,000,000
		繰越収支差額	△ 2,165,663,064
		翌年度繰越収支差額	△ 2,165,663,064
		純資産の部合計	1,774,863,320
		負債及び純資産の部合計	2,290,853,987

令和6年度 収支決算

金光学園やつなみ保護者会

I. 一般会計

収入の部				
科 目	予算額	決算額	差 異	摘 要
1 会 費	3,750,720	3,731,520	19,200	月額 P@320、 T@400
2 繰越金	1,570,262	1,570,262	0	
3 寄付金	20,000	20,000	0	大祭直会
4 雑収入	30,000	56,408	△ 26,408	預金利息、笠岡補導センター補助、他
合 計	5,370,982	5,378,190	△ 7,208	

支出の部				
科 目	予算額	決算額	差 異	摘 要
1 指導部費	475,000	470,372	4,628	
A 地区会費	270,000	267,372	2,628	23地区
B 生活指導費	5,000	3,000	2,000	広域補導
C 通信連絡費	200,000	200,000	0	家庭連絡電話料
2 教養部費	3,185,000	1,819,100	1,365,900	
A 機関誌費	2,500,000	1,221,880	1,278,120	やつなみ268・269合併号
B 教養費	685,000	597,220	87,780	
(1) 研修費	400,000	370,620	29,380	総会講演・研修旅行、他
(2) 教養費	250,000	191,600	58,400	教養シリーズ
(3) 講習会費	35,000	35,000	0	やつなみサークル補助
3 庶務部費	1,690,000	1,079,403	610,597	
A 負担金	350,000	275,525	74,475	私中高父母の会負担金、他
B 名簿刊行費	0	0	0	学園名簿（R1年度から発刊しない）
C 慶弔費	500,000	286,000	214,000	卒業式、弔慰、饗別
D 会議費	80,000	44,340	35,660	総会、評議員会、役員会
E 旅費	80,000	25,280	54,720	私中高P連総会、大祭湯茶接待、他
F 事務費	150,000	80,937	69,063	諸消耗品代等
G 特別委員会費	450,000	340,751	109,249	全国・中国地区私中高父母の会等
H 雑費	80,000	26,570	53,430	標語パネル協賛金、振込手数料他
4 予備費	20,982	915,076	△ 894,094	特別会計へ不足分として
合 計	5,370,982	4,283,951	1,087,031	

1. 一般会計収支

収入総額	5,378,190
支出総額	4,283,951
差引剰余金	1,094,239

◎剰余金処分 一般会計剰余金1,094,239円は、次年度一般会計に繰り越す。

令和6年度決算の概要

学校法人金光学園

令和6年度の決算が、5月28日に開かれた法人評議員会ならびに理事会で承認されました。
 学校法人会計の計算書類は、資金繰りの状態を示す『資金収支計算書』、経営状態を示す『事業活動収支計算書』、財産状態を示す『貸借対照表』により表示し、私立学校法第47条及び学校法人会計基準第4号に定められた規則に基づき作成したものが、以下の「財務三表」です。

資金収支計算書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

収入の部		支出の部	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
学生生徒等納付金収入	524,361,220	人件費支出	831,511,187
手数料収入	5,324,100	教育研究経費支出	144,301,927
寄付金収入	65,825,310	管理経費支出	63,329,687
補助金収入	531,267,430	借入金等利息支出	1,505,830
付随事業・収益事業収入	699,048	借入金等返済支出	24,400,000
受取利息・配当金収入	895,393	施設関係支出	37,561,800
雑収入	41,947,298	設備関係支出	23,869,416
前受金収入	51,100,000	資産運用支出	22,107,847
その他の収入	59,780,353	その他の支出	31,039,208
資金収入調整勘定	△ 106,149,240	資金支出調整勘定	△ 7,112,097
前年度繰越支払資金	62,154,554	翌年度繰越支払資金	64,690,661
収入の部合計	1,237,205,466	支出の部合計	1,237,205,466

事業活動収支計算書

(単位：円)

科 目		決 算 額	科 目	決 算 額
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	524,361,220	人件費	852,296,425
	手数料	5,324,100	教育研究経費	236,380,412
	寄付金	19,187,054	管理経費	63,197,904
	經常費等補助金	517,624,430		
	付随事業収入	699,048		
	雑収入	42,016,075		
教育活動外収入の部	教育活動収入計	1,109,211,927	教育活動支出計	1,151,874,741
	教育活動収支差額			△ 42,662,814
	受取利息・配当金	895,393	借入金等利息	1,505,830
	教育活動外収入計	895,393	教育活動外支出計	1,505,830
	教育活動外収支差額			△ 610,437
特別収支	経常収支差額			△ 43,273,251
	その他の特別収入	60,322,276	資産処分差額	563,069
			その他の特別支出	3,281,568
	特別収入計	60,322,276	特別支出計	3,844,637
	特別収支差額			56,477,639
〔予 備 費〕				
基本金組入前当年度収支差額				13,204,388
基本金組入額合計				△ 80,462,932
当年度収支差額				△ 67,258,544
前年度繰越収支差額				△ 2,098,404,520
翌年度繰越収支差額				△ 2,165,663,064
(参考)				
事業活動収入計				1,170,429,596
事業活動支出計				1,157,225,208

支出の部

科 目	R7予算額	R6予算額	R6決算額	摘 要
1 指導部費	475,000	475,000	470,372	
A 地区会費	270,000	270,000	267,372	23地区
B 生活指導費	5,000	5,000	3,000	広域補導
C 通信連絡費	200,000	200,000	200,000	家庭連絡電話料
2 教養部費	2,935,000	3,185,000	1,819,100	
A 機関誌費	2,300,000	2,500,000	1,221,880	やつなみ
B 教養費	635,000	685,000	597,220	
(1) 研修費	400,000	400,000	370,620	総会講演、研修旅行、他
(2) 教養費	200,000	250,000	191,600	教養シリーズ
(3) 講習会費	35,000	35,000	35,000	やつなみサークル補助
3 庶務部費	1,170,000	1,690,000	1,079,403	
A 負担金	300,000	350,000	275,525	私中高父母の会負担金、他
B 名簿刊行費	0	0	0	学園名簿（R1年度から発刊しない）
C 慶弔費	300,000	500,000	286,000	卒業式、弔慰、饗別
D 会議費	50,000	80,000	44,340	総会、評議員会、役員会
E 旅費	40,000	80,000	25,280	私中高P連総会、大祭湯茶接待、他
F 事務費	100,000	150,000	80,937	諸消耗品代等
G 特別委員会費	350,000	450,000	340,751	全国・中国地区私中高父母の会等
H 雑費	30,000	80,000	26,570	標語パネル協賛金、振込手数料
4 予備費	78,799	20,982	915,076	
合 計	4,658,799	5,370,982	4,283,951	

Ⅱ. 特別会計

収入の部

科 目	R7予算額	R6予算額	R6決算額	摘 要
1 特別会費	6,601,440	7,001,280	6,940,080	月額 @680
2 繰越金	0	611,188	611,188	
3 雑収入	10,000	10,000	3,194,626	
合 計	6,611,440	7,622,468	10,745,894	

支出の部

科 目	R7予算額	R6予算額	R6決算額	摘 要
1 教育後援費	6,611,440	7,622,468	10,745,894	スポーツ振興センター共済掛金、生徒用コピー機、生徒会派遣費補助、事業積立金会計への積立等

《教育後援費の内訳》
①日本スポーツ振興センター共済掛金 1,100,000円
②高P連賠償責任補償制度加入掛金 350,000円
③私学ボランティア基金会費 20,000円
④私学ボランティア基金特別会費 10,000円
⑤高校図書室コインコピー機再リース料 20,000円
⑥メールメイトシステム利用料（R8年度分） 100,000円
⑦生徒会派遣費補助 5,000,000円
⑧予備費 11,440円
6,611,440円

Ⅱ. 特別会計

(単位：円)

収入の部

科 目	R7予算額	R6予算額	R6決算額	摘 要
1 特別会費	6,601,440	7,001,280	6,940,080	月額 @680
2 繰越金	0	611,188	611,188	
3 雑収入	10,000	10,000	3,194,626	
合 計	6,611,440	7,622,468	10,745,894	

支出の部

科 目	R7予算額	R6予算額	R6決算額	摘 要
1 教育後援費	6,611,440	7,622,468	10,745,894	スポーツ振興センター共済掛金、生徒用コピー機、生徒会派遣費補助、事業積立金会計への積立等

Ⅲ. 事業積立会計

収入の部

科 目	予算額	決算額	差 異	摘 要
1 積立金	1,000,000	1,000,000	0	教育後援費より
2 繰越金	5,049,700	5,049,700	0	
合 計	6,049,700	6,049,700	0	

支出の部

科 目	予算額	決算額	差 異	摘 要
1 事業費	6,049,700	6,049,700	0	130年記念広告他事業、特別会計不足分

Ⅲ. 事業積立会計収支

収入総額 6,049,700円
支出総額 6,049,700円
差引剰余金 0円

◎剰余金処分 事業積立会計剰余金 0円は、次年度事業積立会計に繰り越す。

Ⅲ. 事業積立会計

(単位：円)

収入の部

科 目	R7予算額	R6予算額	R6決算額	摘 要
1 積立金	0	1,000,000	1,000,000	特別会計より
2 繰越金	0	5,049,700	5,049,700	
合 計	0	6,049,700	6,049,700	

支出の部

科 目	R7予算額	R6予算額	R6決算額	摘 要
1 会 費	3,514,560	3,750,720	3,731,520	月額 P@320、 T@400
2 繰越金	1,094,239	1,570,262	1,570,262	
3 寄付金	20,000	20,000	20,000	大祭直会
4 雑収入	30,000	30,000	56,408	預金利息、やつなみ増刷補助、笠岡補導センター補助、他
合 計	4,658,799	5,370,982	5,378,190	

Ⅰ. 一般会計

収入の部

科 目	R7予算額	R6予算額	R6決算額	摘 要
1 特別会費	7,001,280	6,940,080	61,200	月額 @680
2 繰越金	611,188	611,188	0	
3 雑収入	10,000	3,194,626	△ 3,184,626	マスキングテープ売上、派遣費補助不足分
合 計	7,622,468	10,745,894	△ 3,123,426	

支出の部

科 目	予算額	決算額	差 異	摘 要
1 教育後援費	7,622,468	10,745,894	△ 3,123,426	スポーツ振興センター共済掛金、生徒用コピー機、生徒会派遣費補助等

《教育後援費の内訳》
①日本スポーツ振興センター共済掛金 1,024,100円
②高P連賠償責任補償制度加入掛金 343,200円
③私学ボランティア基金会費 9,430円
④私学ボランティア基金特別会費 10,000円
⑤高図書室コインコピー機再リース料 17,820円
⑥メールメイトシステム利用料（R7年度分） 99,000円
⑦7/21吹奏楽部高校野球応援バス代 83,600円
⑧生徒会派遣費補助 8,158,744円
⑨事業積立金会計へ 1,000,000円
10,745,894円



「挑戦と継続」

ぼくは中学生になって挑戦で終わるのではなく、そこから継続し、生活に活かしていきたいです。

入学前、ぼくはいろいろなことに挑戦してきました。それでもほとんどが、挑戦して約一ヶ月程度でやめてしまい、なかなか挑戦したことを継続できませんでした。だから、ぼくはこれから挑戦で終わらず、せめて三年間は続けていきたいと思っています。そして、あいさつは出会った人、一人一人に気持ちをこめて声を出し、横になって歩かないなど小さなルールから守っていききたいです。

それからもう一つぼくが中学生になつてほしいことは、友達や先生と信頼関係を築き、みんなで行うなことを乗りこえることです。ぼくは中学生になりましたが、一人でできないことは無数にあり



1組 小坂 正宗

ます。ですが、金光学園は地元では会うことのできない、いろいろな所から来る個性のある人たちと会うことができます。だからぼくは、この金光学園のみんなといっしょに工夫し合って笑ったり泣いたり様々な体験をしながら、一人でできない無数のことを乗りこえていきたいです。

「中学生になって取り組みたいこと」

2組 黒田 怜那

私が中学生になって取り組みたいことは、「英検」に初挑戦することです。

なぜ私がこの目標にしたのかというと、私は海外に興味があるからです。小学生のときは、「話す」や「聞く」が中心で、あまり英語を「書く」ことがなく、少し英語に苦手意識がありました。でも、中学生になってみると、英語のテストだったり、外国人の先生が二人もいたり、海外への研修があったりと、英語を本格的に習うようになります。なので、この節目に、英語への苦手意識をなくして、「英検」に取り組むことで、「海外に留学してみたい」や「海外に住んでみたい」という自分の将来の夢に近付けるように、中学校ではがんばりたいと思います。

また、「英検」に挑戦したい理由は、もう一つあります。
それは、新しいことに挑戦しようと思っただけです。私は、これまであまり何かに積極的に挑戦することがありませんでした。でも、新しい環境では、新しく友達を作ったり、慣れない通学方法で登校したり、クラスで何かの委員を引き受けたりと、何かに思い切って挑戦しないといけないことが増えました。
なので、私は、今年一年の目標を、「新しいことに挑戦する」にしました。この目標を達成するために、他のことにもどんどん挑戦していきたいです。
これから、ま



今からできることをコツコツ取り組んでいきたいと思っています。また、この目標を大切にしながら中学校生活一年目を楽しくめるようにがんばりたいです。

「中学生になって頑張りたいこと」

3組 渡邊 心彩

私が中学生になって頑張りたいことは三つあります。一つ目は、クラスの人々と仲良くなれるようにすることです。入学式の時の人の多さに驚きました。私に通っていた小学校は1学年1クラスしかなかったのですが、1年生だけで百人以上というのを知って不安になりました。でも、教室に入ると仲のよい子が居てうれしかったです。このクラスに居る仲のよい子と仲良くしながら、まだ話していない子と会話をし、少しでも距離を近づけていけたらなと思っています。スピーチなどでは、自分のことをしっかり覚えてもらうために、内容をよく考えて話したいです。

二つ目は、勉強です。小学校では、授業をしっかり聞いていればすぐわかる問題でしたが、中学校のテストは家での復習が大事になると聞きました。特に小学



校ではテスト範囲がせまかったので不安です。中学校では計画的に学習を進め、苦手分野をなくすようにテスト勉強を頑張りたいです。
三つ目は、何事にも挑戦することです。私は失敗が怖くてあまり何かにチャレンジしたり、取り組んだりすることが苦手でできていませんでした。けれど、中学校ではたくさんさんの行事や部活動など新しく始まることもあると思います。そういったことの失敗を恐れてあきらめるのではなく、前向きにとらえて積極的に挑戦できるようにになりたいです。

中学校生活はわからないことがありますが不安もあるけど、それ以上に楽しいことやわくわくがあると思うので、金光学園の「人を大切に 自分を大切に 物を大切に」の合言葉を心にとめ、しっかりとやり切る明るい中学生になりたいです。



KGフレンドシップ

「一緒に成長する仲間」

1組 柴田 彩実

私がこの2日間で一番心に残っていることは、クラスメイトの優しさです。フレンドシップに行く前、私は話せる人が少なく、一緒に行動できる人がいるかとても心配でした。だけど、積極的に話すことで、たくさんの人と交流し、仲を深めることができました。新しくでき

た友達と話している、自然に不安がなくなり、あつという間に時間が過ぎていきました。

私が一番心に残ったことが、クラスメイトの優しさであるという理由は、二つあります。

一つ目は、みろくの里で、絶叫系の乗り物が苦手な私を気にかけて、「2グループに分かれて行動しよう」と提案してくれたことです。みんなのおかげでとても楽しむことができました。

二つ目は、2日目の安全教育の避難はしご訓練で、はしごを降りるのを怖がっていた私に、「そんなに心配しなくて大丈夫だよ」などと声をかけてくれる友達がいたことです。

私は2日間を通して、言葉の大切さを改めて実感しました。だから、私も優しい声掛けをしていきたいです。そして、クラスの人困っている時には、手を差



し伸べられるようにしたいです。このような行動を行うことで、クラスの人との絆が深まり、共に成長していくことができると思います。

「学園生活への第一歩」

2組 眞田 望愛

私が、KGフレンドシップで心に残ったことはたくさんあります。その中でも特に心に残ったことが三つあります。

一つ目は、2組のみんなが集団ゲームで協力し合ったことです。綱引きゲームで最後の一本まで

あきらめずに協力して引つ張って、いすこいと思いましたが、2組のみんなには、最後まであきらめない粘り強さがあるのかなと思えました。

二つ目は、学園歌コンクールで2



活していきたいです。

「友情深まる遊園地」

3組 萩原 叶絵

私がKGフレンドシップで最も心に残ったのは、みろくの里です。

当日、バスでみろくの里に到着すると、班でお弁当を食べました。お弁当の時間になると、自然と会話がはずみました。普段なかなか話ができなかった友達と話せて、より仲良くなれた気がします。そんな時間が私にとって特別な時間になりました。

次にグループごとの自由行動で、アトラクションに乗

りました。私たちの班は、ジェットコースターやバイキング、メリーゴーランドなど、たくさんアトラクションを心から楽しみました。どのアトラクションも、何度でも乗



りたいくらいおもしろかったです。しかし、この日に一番印象に残ったのは、アトラクションの楽しさではありません。行事を通して、今まで話したことがなかった人と話せたり、いつもより話が盛り上がりたりして、友情が深まったのがこの日の一番の思い出です。最初はなじめるか不安だったのですが、全員が楽しめる、新しい人との関わりがある、良い行事となりました。みんなの笑顔を見て、私も思わず笑顔になりました。

このような時間を過ごすなかで、友達と過ごすなげない時間はとても大切で、かけがえのない時間なんだと改めて実感しました。



中2 学年集会

2024年度

2025年2月22日 実施

「気づき」

1組 沖田 隼都

今回の学年集会では、普段あまり関わることでない異国の地の方々と会い、会話したり、スポーツを楽しんだりすることができました。ドッジボールではいいプレーがあった時は、「ナイス！」などと声をかけ合い、楽しみながら優勝することができました。優勝した時は「グッドゲーム！」と言ってもらえて嬉しかったです。国は違えどスポーツを通し、仲を深めることができ、団結することができたので、スポーツの力を感じるこ



とことができました。

その後は、留学生の方と会話をしました。実際、留学生の方を前にすると、伝えたい英文が出てこず、頭が真っ白になりました。それでも、なかなかない体験なので思い切ってしゃべってみると、意外と相手に伝えたいことが伝わりました。自信がなくても言葉を出してみることで成功に繋がるんだ、ということを学べた良い機会でした。英語だけに限らず、ほかは「挑戦」から逃げてしまう場面が多々あるので、自信がなくても一歩踏み出し、挑戦することを忘れずに生活していきたいと思いました。次に外国人の方と話す機会があった時は、もっといろいろなことを聞けるように英語を勉強し、スムーズに聞けるようになりたいと思いました。



方は言葉だけだと思っていましたが、言葉で伝えなくても保護者の方の笑顔を引き出せることが分かりました。多くの頑張る姿を見ることが言葉以外での感謝の伝え方だと思うので、これからも一生懸命、勉強も部活動も頑張っていきたいと思いました。

「不安だったけれどとてもいい一日に」

2組 川原 大誠

ぼくは今日の学年集会を通して、留学生との交流だけがとても不安でした。ドッジボールは、たぶん話さないでもなんとかなると思っていました。ですが、その時になると、皆が留学生と話していて、正直話したくないと思っていましたが、友達が話に行こうというので話してみると、留学生から話をしてくれてとても楽しかったです。話してみてもよかったなと思いました。ドッジボール中に



留学生にルールを英語とジェスチャーで伝えることができ、コミュニケーションをとれたらとてもうれしく楽しいことだと気づきました。その気持ちのまま二部の交流に行き、なるべく積極的に質問などをしました。自分の



だけど、留学生はとても話しやすいかつたし、ダンスも失敗しなかったので、とてもいい一日になりました。また機会があればもっと外国の人と話してみたいです。それまでに英語をもっと話せるようにしたいです。

「留学生と交流をして」

3組 上松 芳成

僕が学年集会を終えて、最も心に残った事は第二部の留学生との交流です。なぜそう思ったのかというと、ずっと海外へ行ったことがなく、海外ではどんな生活をしてどんなことをしているのだろうと思ったからです。さらに外国人から見た日本はどういう印象なのだろうと

から見た日本の印象は、「綺麗」と言うことと、「食文化や、アニメが



とても良い」ということが英語を通して話す中で分かりました。食文化に関しては人気なもののが寿司やうどん、お好み焼きでした。寿司、うどんに関しては、古い時代からあるものや、海外にお店があるものなどに人気があり、すごいなと思いました。さらにスポーツは、野球やサッカーなどの有名な選手がいたり、日本が強いスポーツが挙げられました。



さらに母国の話や、食べ物の話が多かったです。母国の話については、もともと知らなかったことや、知っていたけど、詳しくはわからなかったことが多く、それを知れたのがよかったですし、英語でも話せてよかったです。

僕は、もともと英語が苦手でした。でも、この交流のおかげで、英語が楽しいなと思います、苦手だったところがほとんどなくなり、今後の英語が楽しくなりそうです。

今日の学年集会は、正直とても嫌でした。留学生とコミュニケーションうまくとれないんじゃないか、ダンス失敗しないだろうかなどと思っていたからです。

中3 オーストラリアグローバル研修

2024年度

2025年2月9日〜18日 実施

【1日目】

岡山発、バス行き。ホストファミリーとの対面

1組 佐久間 瑛大

僕は2月9日の午後5時に学校を出発しました。バスの中でおしゃべりなどをして過ごしました。途中三木サービスエリアでトイレ休憩をとった後、バス内で各自お弁当を食べました。母が弁当を作ってくれました。美味かったです。

関西国際空港には午後9時前につきました。出国審査と手荷物検査が終わり、シャトルに乗って国際線ターミナルへ向かいました。40分の自由時間を友達と過ごし、飛行機に搭乗しました。いよいよ出発するんだという気持ちでいっぱいでした。23時30分の定刻に関西国際空港を出発しました。機内食で僕は牛丼を頼みました。翌日の朝5時にシンガポールの

チャンギ国際空港

につきました。2時間のトランジットでした。そして8時にバスへ飛び立ちました。約5時間のフライトでした。機内食を食べている最中、かなり長い間揺れました。初めて飛行機での大きな揺れを経験しました。

正午、バスに到着しました。GOLD杜の方が迎えてくれました。いよいよバスでの7日間が始まるんだと実感しました。サウスパースのスワン川へ行き、パースの街を眺めた後、エレンブルックハブの集合場所へバスで移動しました。どんな人がホストファミリーなんだろうとドキドキで溢れていました。集合場所の公園へ着き、いよいよ対面です。他の人の名前が呼ばれていき、ついに僕の番



です。ファミリーはハグで僕を迎えてくれました。いよいよオーストラリアグローバル研修の始まりです。

【2日目】

フリーマンントルでユースリーダーたちとのアメーzingグレース

1組 橘高 純

ホストファミリーにハブの集合場所まで連れて行ってもらって、バスでフリーマンントルに行きました。ユースリーダーと合流し、グループに別れてアメーzingグレースを始めました。アメーzingグレースではまず、競技場に行きました。大きかったです。次にフリーマンントル刑務所に行きました。窓の数が多かったのです。次にスーバーに行きました。次にフィッシュアンドチップスのお店に行きました。とても美味しそうでした。次に船を見に行きました。風と雨がとても強くて大変でした。最後に難破船のWAMIミュージアムに行きました。沈没した船のものなどが展示してあって迫力がすごかったです。その後グループのみんなとユースリーダーでお昼ごはんを食べました。その時に自

【3日目】

ラウンドハウスとのマーケットミツシオン

4組 松本 育実

無事にオーストラリアへ入国し、ホストファミリーと出会い、少し落ち着くことができた3日目。我々はフリーマンントルに来て、午前にAmazing Race、午後自由散策を行った。

班ごとに分かれ、ユースリーダーを迎え入れ、いよいよレースが始まった。気さくで話しやすいリーダーだったので安心した。それぞれのお題をクリアしながら、会話や街の雰囲気を楽しめた。私のチームは一着にはなれなかったが、勝利と同じくらい有意義な経験となった。

特に印象に残ったのは、ラウンドハウスとマーケットのミツシオンだ。ラウンドハウスの近くにいた時、雨が降り始めた。パラパラ降るのは予想していたが、雨が極めて少ないと聞いていたパースで視界が変わるほどの雨に見舞われるとは予想していなかった。濡れてしまったが、空までもが我々を歓迎していると思うと、とても嬉しくなった。そして、マーケットのミツシオンは、「マーケットで何が買



フリーマンントルから帰って、ホストファミリーに森とダムに連れて行ってもらいました。森では、見たことのない植物や虫をたくさん見ることができました。ダムは、とても水が少なく、水の貴重さを教えてもらいました。



えるかを尋ねる」だった。我々は勇気を出し、知らない人に尋ねることにした。私は座っていた少女に声をかけ、質問をした。幸運にも愛想よく答えてくれた。彼女にお礼を言い、次のミツシオンに進むことにした。心なしかチームメンバーがより積極的になった気がする。

昼食を取ったあと、ユースリーダーと自由散策を行った。まずアイス屋さんに行き、それぞれアイスを食べた。ちゃんと英語で注文できて、自信がついた。言うまでもなくアイスは美味しかった。日本には無いフレーバーもたくさんあって面白かった。次にゲームセンターをのぞいた。日本製の機械もあり、日本とオーストラリアのつながりを感じた。その後中古の本を扱う店に行き、好みの本を探した。日本のマンガがあったので買った。おつりを受け取ると、オーストラリアのコインはかな

やかな発見をした。

英語の「Amazing」は、日本語では表しきれない様々なニュアンスを含む。同様に、今日の Amazing Race は文字で表しきれないほどの学びや思い出になった。

【4日目】

西オーストラリア大学と西オーストラリア博物館の見学

2組 松葉 玲

西オーストラリア大学に着いたあと、ユースリーダーと合流し大学と一緒に回りました。食堂に行ったとき、ロイドというフリーマントルのときにいたユースリーダーがいて、一緒に回るようになって、いろいろな学部の場合に連れて行ってくれました。特に工学部に力を入れていたと言っていました。僕達が英語を理解できないときはふたりとも日本語をすごく話せていたので日本語で話してくれました。カイは日本とのハーフらしくて日本



語がペラペラで、ロイドは10年間日本に住んでいたらしく、関西弁でした。ランチのときは日本語で様々なことを話しました。

ユースリーダーと別れたあと、僕達は西オーストラリア博物館に行きました。そこには、ストーリーのようなものがある先住民のアボリジニのアートがあり、すごく独特なアートであったので理解はできませんでした。他にも恐竜や化石の標本など、今まで見たことのないようなものがたくさん展示されていました。一階の方にグッズのようなものがたくさん売っていたのでそこで、日本の家族へのお土産をいくつか買いました。

ホストファミリーの家に帰って夕食としてラーメンを食べました。3日ぶりに見覚えのある食べ物が出てきてとても嬉しかったです。夕食のあとホストブラザーにテレビゲームをしようと言われ、しばらく一緒に遊んでいると夜景を見に行くと言われ、反対側の岸から見る市内はとても美しかったです。そしてそこで、ホストファミリーとの仲をさらに深めることができたと思います。

この日は僕にとって、とてもいい日にできたと思いました。

【5日目】

カバシヤムワイルドライフパークとスワンバレー訪問

1組 松岡 和音

私達のグループはカバシヤムワイルドライフパーク（動物園）に行った。園内に入る前にハブごとにわかれて写真撮影をした。園内に入ってから、はじめにウォンバットとのふれあいや写真撮影をした。その後の自由時間では、オーストラリアの固有種の鳥を見たりヘビを触ったりした。ウォンバットのコーナーを出て休憩しているとき、近くのケージにはコウモリがぶら下がっていた。夜行性だからか一切動く素振りを見せなかった。次にコアラとの写真撮影をした。コアラとの写真撮影をする際には、直前に石鹸のよいな消毒をする必要がある、コアラに触



ることは可能だが手の甲で優しく撫でるのみだった。次にとあるショーを見た。そのショーではヒツジをどのようにして集めるのか（犬が吠えたり追いかけてたりして一箇所にヒツジを集めた）や、ヒツジの毛の剃り方機械で剃っていたがあった。また、鞭を使って大きな音を鳴らすことや子ヒツジにミルクをあげるものの体験などがあつた。

その後カンガルーのエリアへ行った。ここでは自由にカンガルーに餌を与えたり写真撮影したりできた。餌を近くに投げると野生の鳥がその餌を食べてしまう（その結果仲間を呼びカンガルーの餌がなくなる）ため、カンガルーの口元に餌を持っていく必要があつた。実際に餌を口元に持つていくと、満腹でなければガツガツと食べた。その後は動物園の入口近くに一度集合し昼休憩と自由時間となった。昼食を食べ、余った時間でまだ行っていない場所に行き眠っているコアラを見ることができた。

こうしていると時間がきたので動物園を出て次



にスワンバレーに行った。ここではチョコレートや蜂蜜の試食ができた。あたりにはブドウの木が多くあり、ワインを主に製造しているらしい。そのようにしてホストファミリーの家へと帰った。

【9日目】

各ハブでの現地校との交流

3組 岡森 勇典

この日は現地校で授業を受けました。僕は Kalamunda ハブなので Mt Lawley SHS に行きました。僕は海外の学校に行くのは初めてで緊張もありますが、それより期待と興奮に満ちていました。

まず学校について、現地の生徒に会いました。生徒はみんな同い年ですが、1月から1学期になるので僕達より一個上の10年生でした（オーストラリアは基本的に小学校から高校まで1〜12年生までであり10年生は高校1年生）。

それが終わると、一度みんなと離れることになりました。1限目は数学

でした。数学では、分数の方程式や不等号が関係する問題などを解いていました。問題自体は難しくはありませんでしたが、英語なので少し聞き取りづらかったです。2限目はレポートをパソコンで書いていました。

2限目が終わるとティータイムというものがあり、少しのお菓子を食べました。また、この時間に現地の生徒の人と少しお話をしたのですが、話しやすく、少し日本語とかも使ってくれたので、楽しく会話ができました。3限目は英語でした。英語と言っても、英単語などを学ぶ日本の英語などではなく、どちらかというとこちらの国語のような授業でした。内容は、花を持った一人の男が大勢の人間に銃口を突きつけられている写真が黒板に映し出され、その写真で気づいたことを生徒が言っていくという感じでした。4限目は社会でした。社会ではインフレ・デフレの話をしていました。ここではプリントが配られていて穴埋めをする形式でした。5限目は技術でした。技術では大きい金属に板を運んだり、設計図を書いたりしていました。そしてすべての授業が終わり現地の生徒と別れを告げました。

僕はこの経験を通して、海外の学校について色々なことが学べ、現地の生徒とともに仲良くなりました。今後も色々な経験をしていきたいです。

【7日目】

現地校との交流授業

3組 金子 由幸

最初に私のグループはバスに乗って目的の学校へ向かいました。非常に眠かったため、バスの中で仮眠を取りました。バスが目的地に着き、校門前で待っていると、ハイテンションの先生が来まして。とてもユーモアがあつて面白い先生でした。そのあと、バデীর発表があり、私はバスケットの人とバデীরとなりました。始めの授業では飛行機の試運転（パソコンで）をしました。初めてのことだったのでドキドキしましたが、運転してみると楽しさが勝り、とても楽しめました。次の授業では、ブーメランを作成しました。私は絵が書



くのがあまり得意ではないのですが、人と一緒に作るのは楽しかったです。美術の先生もユーモアがありました。

3限目の前に小休憩があり、バスケットボールを試みたのですが、外国の皆様方はとても体が大きく、190センチを超えている男子も多かったです。もちろんボロボロに負けました。

3限目は家庭科でした。料理は苦手ではなくてむしろ得意だと思っていたのですが、英語の説明書を読み取ることができずに非常に苦戦しました。結局はバデীরに頼ってしまったのが悔しかったです。

4限目は英語の手話を行いました。簡単なものが多くて助かったのですが、ローマ字ということもあつてどうしても遅くなってしまうのが難点でした。私のバデীরは三年間学んでいると言っていたのでとても早かったです。

昼食を終え、5限目は日本の文化に触れました。折り紙と福笑いをしました。鶴と蝶を折って、互いに見せあい、どちらが上手かを競いました。福笑いでは私が途中でトイレに行ってしまったので全然できなかったのが残念でした。

最後にお別れです。下校時刻がきてしまいバデীরと分かれる時、お互いの連絡先を交換して握手をしたのは今でも覚えていいます。彼とは連絡を今も取っています。

とても楽しい一日でした。新しい友達がたくさんできてとても充実していました。今後もこの体験を活かして生活していこうと思います。

【8日目】

ホストファミリーと過ごす週末

4組 川上 丈瑠

私はホストファミリーに連れられ公園に行きました。ホストファミリーはすごく元気で、すごくアクティブな毎日でした。その中でもホストファミリーと過ごす最終日は特に楽しかったです。その日は僕のいたマンジュラハブの学園生とのバーベキューがありました。やはり異国の地であり、自国の言語が伝わらないところで自分の知り合いと会ってすごく楽しかったし、やったことのないクリケットという球技を試みました。やったことがないので苦戦したのですが、やはり挑戦というものはとても楽しく、あつという間

に時間が過ぎてしまいました。その中でも、愛媛や和歌山の独立リーグのプロ野球選手に出会えたのもすごく良い思い出です。また会えることを楽しみにしていると言っていたので、また近いうちに行ってみようかなと思いました。

その中でもやはりメインはバーベキューだったのですが、やはり日本でするものとは規模も人数も何もかもが違って、すごく新しい出会いだらけだなあと感じました。

私はこの研修を通して、やはり異文化との交流はすごくいいものだと感じたのと、何でも挑戦してみる姿勢が大事だと思ったこと、そして、出来ないなりに頑張ってみる大切さを学ぶことが出来たと思います。また観光でパースを訪ねたいです。

【9日目】

ホストファミリーと過ごす最後の週末

4組 雀部 燦

15日はホストブラザーのマークのセーリングを見に行きました。マンジュラのヨットクラブは、土曜日の午前にヨットの講習と午後にはヨットのレースがあると

聞きました。マークがセーリングしている間に、僕ともう一人のステイ先の友達とホストマザーでおみやげを買いに店をはしごしました。そこで家族へのお土産や自分が欲しかったものを買いました。お土産などを買ったときに、オーストラリアの物価は日本よりも高いことを改めて実感しました。

マークの迎えに行ったときにマークがレースで1位になったことを聞いて驚きました。家に帰ってからは次の日のバーベキューの準備とネットフリックスを見て家族のみんなと楽しく過ごしました。

16日の午前は、日本に帰る準備と家族と一緒にネットフリックスでいろいろな映画を見ました。午後はマンジュラのみんなでバーベキューをしました。そこでクリケットや日本の友達と一緒に鬼ごっこもしたりしました。クリケットは初めてしたので不安でしたが、実際にやってみたら楽しかったので1〜2時間ぐらいしました。また機会があったら友達や家族と一緒にクリケットをしたいです。バーベキューでは焼きたてのやほやのホットドッグを食べたり、ステーキも食べたりしました。

この土日でいろいろな体験ができたので、日本でも楽しく過ごしていきたいと思いました。

【10日目】

ホストファミリーとの別れ。いざ帰国の途へ

2組 浅原 大碧

ホストファミリーと別れるときは、意外とあっさりしていて少し挨拶をしただけでした。ホストファミリーと別れた後はキングスパークに行つて、久しぶりに会う友達と顔を合わせました。約一週間会っていないだけで妙に懐かしい感じがして、たくさん会話をしました。キングスパーク内のお店でお土産などを買うことができました。

その後バスに乗ってパース空港へ行き、飛び立ちました。機内では映画を見たりご飯を食べたり、寝たりしながら過ごして、シンガポール経由で日本に帰りました。

日本に帰った後は、看板の表記などが日本語であることに安心し、日本が居心地の良い場所だったことを強く思いました。

高1 一日旅行

2025年4月14日 実施

「仲を深めた一日旅行」

1組 古谷 海渡

僕は今回の一日旅行を通してクラスの仲や、他クラスの人との仲を深めることができたと思います。最初に行ったNEWレオマワールドでは、一緒に行動する人たちで「どれ乗る？」や「何食べる？」などと話し合い、アトラクションに乗った時は思い切り楽しみ、小さいころを思い出したような感じがしました。次に行った中野うどん学校では、はじめてうどん作りを体験しました。僕が一番楽しかったのは、うどんを切る作業です。自分好みに麺を切ることができてよかったです。みんなで音楽を流しながらうどんを踏む作業はタンバリンを持ち、みんなで盛り上がりつつ出てよかったです。



今回いろんな人と交流できたけれど、まだ話せてない人もいるので、これからもどんどん仲を深めていきたいです。

「不安が晴れた」

2組 原 彩乃

今回の一日旅行を通して、旅行の目的通りにクラスの人と仲を深められたと考えています。私は高校から入学したので、知らない人ばかりで友達や、話せる子は



出来ないと考えていました。ですがレオマや琴平で他クラスの子も含め話しかけてくれたり、バスで自己紹介をし合ったりしたことで、共通の趣味を持つ子を知ることができました。さらにレオマと一緒にアトラクションに乗ったり、琴平でうどんを皆で食べたりしたことで少しずつ周りの人と過ごすことに慣れることができるようになりました。

部活動で同学年の女の子が誰もいなくて不安だった私でしたが、一日旅行のおかげで不安だと感じるものが少なくなり

ました。これから体育祭やほつま祭などたくさんの場面でクラスメイトと協力することが増えると思うので今回の旅行で築いた関係をこれからも続けていき、いいものにできるようにしたいです。

「最高の思い出作り」

3組 細谷 菜広

私は、今回の一日旅行でしっかりと、高入生のみならず仲良くすることができたと思います。私たちはレオマワールドでは、みんなが大好きな遊具の話題で盛り上がりました。中学3年間同じ学校にいても、あまり喋ったことない人やその人のことをあまり知らない人もいて、今日だから話せることや、その人の内側を聞けてよかったです。男子も女子もだれも一人で行動してる人はいなくて、みんな仲良く行動できていいなと思いました。

うどん学校でも初めてやる体験をみんなとできたので、最高の思い出作りになったと思います。琴平の自由散策で有



名なコロッケを食べたり、おみくじを引いたり、いろんな人と話したり、一日旅行だから楽しいことをいっぱいできてよかったです。まだ高校生になって、新しいメンバーと会って1ヶ月も経ってないけれど、もっとみんなと親睦を深められればいいなと思います。

個性的な新メンバーも増えて、色々環境が変わってきた中で、またみんなと一つになって、楽しみながら勉強や部活動や行事ができればいいなと思います。

「一日旅行で得たもの」

4組 福島 宗佑

私は今回の一日旅行で香川のレオマワールドと中野うどん学校に行きました。この一日旅行では楽しくて学びの多い体験をすることが出来ました。

レオマワールドでは、色々な食べ物やアトラクションを体感し、友達と笑い合い、最高の思い出を作ることが出来ました。スリルとすばらしい景色が作り出す時間は、日々のストレスや疲れを忘れさせてくれました。レオマワー



「何事もやってみなければわからない」

5組 西浦 妃星

4月14日に、香川県のレオマワールドと中野うどん学校を訪れました。高校から入学した人たちもいたので、より充実した一日旅行となりました。

私は、人生で初めてレオマワールドに行きました。実際に行ってみると、私が想像していたものよりたくさんアトラクションがあり、美味しい食べ物もありました。私は、絶叫系のものが嫌だったのですが、最初絶叫系のアトラクションに乗

る予定はなかったのですが、友達が「せっかくだから、乗ってみようよ！私も乗るからさ！」と提案してくれたので、私もせっかくきたんだからと思い頑張って乗ってみました。



すると、意外にも楽しいということがわかりました。友達も「楽しいってことがわかって良かった」と笑顔で言ってくれました。何事も、やってみなければわからないということを教えてもらったレオマワールドでした。

続いては、中野うどん学校でのうどん打ち体験です。ここでは、麺棒を使って麺の生地を伸ばしたり、一から粉をこねて麺の生地を完成させたりする体験をしました。ただ、生地をこねるのではなく、音楽に合わせて、生地が均等になるように考えたりと様々な工夫が凝らされていました。とても楽しかったです。

今回の一日旅行を通して、生徒同士の友情を深めることができ、何事にも挑戦してみることを学びました。



中1 合唱発表会

2月18日(火)に行われた中1やつなみ保護者会では、学年による「合唱発表会」が行われました。

協調性と配慮

中2 1組 佃 和真

僕は合唱コンクールでとても大切な経験をすることができました。まず合唱コ

ンクールとはそれぞれのクラスで歌う曲を決め、それを保護者の前で発表する行事です。短い練習期間でどれだけ完成度を高められるかがポイントになっています。そんな合唱コンクールを通してクラスがよくなったことは、主に協調性ができたこと、配慮ができるようになったことです。合唱コンクールでは練習できる時間が限られていて、その短い時間を有効に使うために、みんなで一つの目標に向かって練習する必要があります。その時に必要なのが協調性です。なぜかという、みんなが自分勝手に練習しても、合唱は上手くならず、みんなで合わせて歌う必要があるからです。

ところが、僕のクラスでは初日練習をしたときにまだ協調性は十分とはいえませんでした。それでも実行委員の人が頑張ってくれたおかげで少しずつ合わせる気持ち芽生えてきました。そこで次に必要になったのが配慮です。実行委員や歌の上手い人がみんなに指示やアドバイスをしようとしても、みんなが喋っていたりするとなかなか指示が通らなかつたり、アドバイスできなかつたりします。そういったときに誰かが指示やアドバイスを

しようとしたら黙るなどの配慮が必要になりました。

そのようなクラスの成長を経て迎えた本番。たくさんの人がいて緊張する中、今までで一番の声が体育館に響き渡りました。このような体験をこれからも活かしていこうと思っています。

伴奏の難しさと楽しさ

中2 2組 薬師寺絆那

私は合唱発表会でピアノの伴奏を担当しました。私は人前で演奏するのは初めてではなく、以前にも何度かピアノの発表会で演奏をした経験があります。しかし、合唱の伴奏として演奏するのは初めてだったため、今までは無かった責任感を感じていました。

練習が始まったところ、最も難しいと感じたのは、合唱団の歌声とピアノの演奏のバランスを取ることでした。いつもな

ら会場に大きく響くように大きい音で演奏します。ですが、合唱の伴奏となると歌声を邪魔しないように、また合唱のペーシングに合わせるためには、細かいタイミン

グや音量の調整が必要でした。最初は自分の演奏が上手いかわからないことがあったが、練習のたびに仲間たちとの息が合っていくのが感じられて、自信を持てるようになりました。

本番の日は緊張感がすごく、あまり記憶が無いのですが、楽しかったということはよく覚えています。長い時間過ぎたみんなとの演奏はすごく楽しかったです。

演奏が終わった後、先生や友達から「演奏良かったよ」と褒めてもらい、嬉しかったです。毎日睡眠時間を削って練習した甲斐があったなと思いました。

この経験を通し



て、また演奏する機会があれば挑戦していきたいと思いました。そして、次に伴奏をする際には、もっと自信を持って演奏できるように進歩していきたいです。

練習時間短めの合唱発表会

中2 3組 中原 偉汰

僕は合唱発表会を通して、様々な面で成長することができました。最初、自分たちが選んだ曲が一番難しい曲だと知り、先生から「大丈夫？」と言われましたが、みんなはやってやろうという気持ちで溢れていたように思いました。男子と女子でパートを分け本格的に練習がスタートすると、僕が歌うパートは原曲とは違う音程でなかなか音を合わせるのが大変だと気づきました。

実行委員が練習を引っ張ってくれたりお互いにミスに気をつけたりしながら強弱や表現などを工夫し歌ったことで、少しずつですが歌に自信を持つことができているようになりました。

練習では、練習時間が短い中、意見の対立などがありました。話し合いながら解決し進めていくことができ、1年生の最初の頃とは全く違い、気持ちが一つ

にまとまってくることが感じられました。

本番の舞台では、「本当にうまくいくのか」と不安になり、緊張しながらもなんとか歌い終わった途端、自分たちの努力が実を結んだことが感じられ、一気に達成感や開放感が爆発しました。仲間と協力すれば、練習時間が短くてもこんなにも上手くなれるんだな、と実感することができました。

そして歌を練習したみんなと歌いきることは、こんなにも楽しく、嬉しい気持ちになることを改めて実感することができました。

この合唱発表会では、生徒一人一人が全力を出し、クラス・学年全体が一つになることができた大切な機会だったと思います。これからも仲間と協力していい



国際交流活動報告

第7回 ラッドフォード・カレッジ 姉妹校交流

2025年3月19日～29日に
かけて生徒13名が参加して
実施されました。



オーストラリアで気づいた「新しい自分」
高3 桑田 健太

オーストラリアでの交換留学は、私にとって人生を大きく変える経験となった。新しい環境の中で学び、異文化に触れ、多くの人々と出会うことで、自分自身の成長を実感できた。ここでは、留学生生活を振り返りながら、その感想をまとめた。オーストラリアの大学では、日本とは異なる授業スタイルが印象的だった。講義だけでなく、ディスカッションやグループワークが多く、学生一人ひとりが積極的に発言することが求められる。最初のうちは、自分の英語力に自信が持てず、意見を発表することにためらいがあった。しかし、周囲の学生が間違いを恐れずに発言する姿を見て、私も少しずつ挑戦するようになった。その結果、英語での表現力が向上しただけでなく、自分の意見をしっかりと持つことの大切さを学んだ。

オーストラリアは多文化社会であり、さまざまな国から来た学生と交流する機会があった。特に留学生生活では、異なる文化や価値観を持つ人々と共に過ごすことで、新しい発見が多かった。食事の違いや習慣の違いに驚くこともあったが、

それらを共有し、互いに理解を深めることで、国や文化の壁を超えた友情を築くことができた。日本では当たり前だと思っていたことが、世界ではそうではないと気づく瞬間が何度もあり、視野が大きく広がった。

留学生活では、自分で考えて行動する力が求められた。住む場所の手配、食事の準備、スケジュール管理など、日本にいたときは家族や友人に頼っていたことも、自分でこなさなければならぬ。特に、英語での手続きやトラブル対応は大変だったが、その経験を通じて、自立することの大切さを学んだ。初めて銀行口座を開いたときの達成感や、電車を乗り間違えたときの焦りと対応策など、すべてが貴重な経験となった。

この留学を通じて、私は大きく変わったと感じている。以前は、新しいことに挑戦するのが苦手で、失敗を恐れることが多かった。しかし、留学中は失敗を経験する機会も多く、それを乗り越えることで自信がついた。例えば、普段の英語の会話で緊張しすぎてうまく話せなかったときも、周りのサポートを受けながら改善し、最終的にはしっかりと会話でき

ものを作り上げていきたいです。

団結できた合唱コンクール

中2 4組 金光 育乃

私は合唱コンクールで、同じコーラス部の友達と一緒に実行委員になりました。この合唱コンクールは保護者に歌を届けるために開かれました。テーマは「SHR songs」輝け！今も未来も！です。このテーマを大きな模造紙に書く作業を放課後の部活の時間を削ってしたり、各クラスで歌う歌の案を出してクラスの人みんなに伝えたりなど、いろいろな面で頑張ることができました。

私たち4組は、「君に捧げる応援歌」という曲を歌いました。はじめは歌の練習をするとき、声が小さかったり、ふざけたり、騒いだりする人が多くて、とても不安でした。でも練習を重ねていくうちに一つの案ができました。それはラストのサビで面白い振りつけを入れるということです。この案が出るまでは、練習中にドヨンとした空気が多かったけど、この案が出てからはみんなが楽しみながら歌うことができました。私は前に出て手拍子をしたりする役をしていたのです

が、ラストのサビが近づいてくるとみんなの顔がニヤニヤしてくるのがとても面白かったです。他にも、みんなの小さい頃の写真をスライドで流したりしました。結果、本番も成功し、4組らしい元気な歌を届けることができました。

四つのクラスすべての合唱が終わったあと、全体合唱をしました。曲名は「365日の紙飛行機」です。1・2組と3・4組に分かれ、ハモったりしました。学年主任の鳥越先生にもとても褒めていただきました。クラスで一つのことをすることはよくあるけど、学年で一つのことをすることは少なかったので新鮮な気持ちになりました。

この合唱コンクールを通して、学年、そしてクラスの団結力がより深まりました。



るようになった。挑戦することで成長できるという実感が、私の考え方を前向きに変えてくれた。

オーストラリアでの交換留学は、単に語学を学ぶだけでなく、多くのことを経験し、自分自身を成長させる機会となった。学業面では積極的な学びの姿勢を身につけ、異文化交流を通じて新しい価値観を得た。また、生活面では自立する力を養い、挑戦することの大切さを学んだ。留学前と比べて、私はより柔軟で積極的な人間になれたと感じている。この貴重な経験を今後の人生にも活かし、さらなる成長を目指していきたい。

オーストラリアで得た「自信」と「成長」

高3 高木 柚奈

私は、初めての海外に大きな期待と同時に不安を抱えていた。しかし、その不安は、すぐに消えた。キャンベラ空港に到着し、ホストファミリーと会った時、とても暖かく、明るく迎えてくださった姿に安心した。もちろん、初海外の私にとって、現地の英語をすぐに聞き取れることはとても難しかった。着いてすぐ、たくさん話しかけてもらってとても嬉しかった

特に、ホストファミリーの温かい接し方や、おらかな姿勢に触れることで、私自身、精神的にも成長できたと感じた。

このホームステイ期間を通して、英語力の向上はもちろん、精神的にも大きな成長があった。ホームステイ期間だけでなく、シドニーでも様々な体験をすることができた。今回、オーストラリアで得た知識や経験を今後の生活や学習に活かしていきたい。



が、分からず、戸惑ってしまう場面も多くあった。それでも、自分から話そうとする意思を持っていくと、相手もわかりやすいように話してくれたり、聞いてくれたりして、たくさん会話することができた。

私のホストファミリーは牧場を経営していて、羊や鶏、犬など、たくさん動物たちと

触れ合ったり、その広大な土地からたくさんのお話を学んだりすることができた。羊と触れ合ったり、鶏の餌やりをしたり、川に水を汲みに行ったり、ピザ窯でピザを作ったり焼いたり、普段の生活では絶対できないさまざまな体験をした。そして、週末や放課後には、ホストファミリーが果樹園やショッピング、受け入れをしてくれている子達との夕食など、様々な



場所に連れていってくれ、とても充実したホームステイ期間を過ごすことができた。また、ホストファミリー以外にも、授業内でのグループ活動やホストシスターを通じて、たくさんの子達とたくさんの方との交流を持つことができた。

私が今回の旅で一番思いに残っているのは、オーストラリアの教育だ。私は元々、海外の教育に興味を持っていた、オーストラリアの学校に通うことをとても楽しみにしていた。オーストラリアでは、教室の中に、カウンターのようないくつかのソファのような席など、様々な席が用意されていたり、机が日本という班机のような形であったり、みんなが積極的に発言していたりと、日本とは大きく違う授業スタイルを知ることができ、生徒にとって、学びやすい環境を提供されていると感じた。また、モーニングティーと呼ばれる軽食の時間がとられていて、集中力を保ちながら学習を続けられる学習環境も整えられていた。

また、異文化に触れることで、柔軟性や適応力も養われた。日本とは異なる生活習慣や考え方に最初は戸惑ったが、次第にそれを受け入れ、楽しむことができた。

第10回イギリス短期語学研修

2025年3月19日～4月2日にかけて生徒15名が参加して実施されました。

挑戦する勇氣

高2 横溝 栄太

僕は3月から4月にかけて、イギリス研修に参加しました。2週間の研修では、語学学校での勉強、ホストファミリーや現地の学生たちとの会話によって、英語のコミュニケーション能力を向上させることができました。滞在したのはロンドンの近くにあったオーピントンという町でした。ホストファミリーはマザーのミッシェルとブラザーと犬でした。最初は英語のコミュニケーションに不安がありましたが、ホストファミリーは気さくでとても話しやすい人だったため、不安もなく会話ができるようになりました。朝食や夕食では一緒に食べることはなかったけれど、時々カレーなどの日本食も出してくれました。

ロンドンの観光では、大英博物館やバッキンガム宮殿、ビッグ・ベンなどに行きました。実際に目にしてみると、インス



タやユニチュエプで見るよりもとても大きく壮大で感動しました。ケンブリッジ大学の観光では、キャンパスの雰囲気や合った庭や建物が広がっていました。大学というよりも観光地のようにびっくりしました。途中で買ったポテトがとても美味しかったです。とても落ち着いた雰

Hello! :)

My name is Victoria Siegel and I'm from Stuttgart, Germany. Everyone at Konko is super nice and helpful! I'm in the tea ceremony and art club. Even though sometimes I don't understand what I have to do, it's still super fun! I hope I can make lots of good memories here.

こんにちは。私はヴィクトリア・ズイーゲルでドイツ、シュトゥットガルトの出身です。金光学園の皆さんはとても素晴らしくて助けになってくれます。私は茶道部と美術部に入っています。何をしなければならないのかわからない時もありますが、とても楽しいです！ここでたくさんの良い思い出ができることを望んでいます。



留学生紹介

2025年度AFS長期留学生として、ドイツからヴィクトリア・ズイーゲルさんが留学してきています。高1年5組で4月9日から、来年の2月1日まで皆さんと一緒に過ごします。

表紙の言葉

中2 稲谷 颯真

「若竹に 晴たる月の しろさかな」

僕は、この版画で月の明かりで竹が少し光っているところを表現しました。竹の節の部分を彫るのが難しかったです。工夫したところは竹の色を少し明るくしたところですね。

囲気で静かな環境だったので、ここで学べる落ち着いた雰囲気の人になるだろうとも思いました。自分ももっと英語の勉強を頑張つて、将来はこうした環境で学びたいと強く感じました。ケンブリッジの町全体も穏やかでいいなと感じました。

グベンを見ることができました。バックingham宮殿には、本当に皇太子一家が住んでいることを知って驚きました。とても大きくて、鉄砲を持った兵隊みたいな人がいて緊張感がありました。ビッグベンがよく見たら金色でキラキラしていて思ったよりも小さかったです。でも、とても有名なものを見ることができて嬉しかったです。ロンドンの街で桜を見るのができました。イギリスでも桜が咲いていることを知らなかったです。



イギリスの文化や暮らしに触れて

高1 橘高 純

私は、この春にイギリス語学研修プログラムに参加して、イギリスの文化や暮らしを体験してきました。

私のホストファミリーはリタイアしたご夫婦と犬二匹と馬四頭でした。マザーはとても綺麗好きでファストフードなどをあまり好んでいない方でした。ファザーはよく犬と遊んでいました。

イギリスの中で特に印象的だったことは、ロンドン観光と現地校訪問です。

ロンドンでは、バックingham宮殿やビッ

現地校訪問では、学校を案内してもらったり体育の授業に参加したり日本を紹介するプレゼンをしたりしました。学校はとても大きく、映画製作やドラマの授業など、高校なのに専門的なことが学べるようなカリキュラムもあり凄いと感じました。食堂では無料でフィッシュアンドチップスやビザ、ガトリーショコラなどを食べることができました。特にフィッシュアンドチップスが美味しかったです。たくさんの生徒とも話すことができ、国際交流をしていることが実感できて嬉しかったです。日本では外国の方を見ることや学校に留学生が来ることがとても珍しく

感じますが、現地校ではいろいろな人の人が混ざって学校生活を送っていました。みんながそれを自然と受け入れて関わっているところは、日本には無い文化だと思いました。色々な国の人と関わると、あまり知らない国の文化を知ることとできるし、様々な考え方が身につけてとてもいいなと思いました。

イギリスに行ったことで、英語を話せるようになって色々な国の人と話してみたい、もっと外国の文化を知りたいと思うようになりました。英語のモチベーションが高まったので、もっと英語を勉強して、将来どこでも生きていけるような人になりたいです。

ある日のホームルーム



中学1年

「いじめをノックアウト」

5月9日と21日に中学1年生は人権教育の一環でHRを使って「SNSトラブルをどう防ぐか」、「いじめが起きたらどう対応するか」についてクラスで考えました。最初に



アンケートをとり、SNSの楽しいところについては「いろいろな情報を収集できる」「推しを見られる」「友達と一緒に話せる」などありました。ただし、「イヤな思いもしたこと



がある」「悪口を言われた」などマイナスな経験もあり、使い方には注意する必要があるという意見も出ました。そこで、使用に関してのきまりについて意見も聞きました。「メッセージを書き込まない」「人を傷つけるような書き込みをしない」「使用は21時まで」など家庭の使用ルールをきちんと決めている人が多くいました。

また、NHKの「いじめをノックアウト」の動画を視聴して、SNS上でのちよつとした一言が大きなトラブル、いじめにつながるということを知り、それぞれが使い方に気をつけなければならないという

づかされました。今後、身の回りでトラブルが起これないように、これから自分の行動にどう気をつけなければならないか、どう行動していく必要があるのかについて考え、生徒一人一人が「いじめをノックアウト行動宣言」を作成しました。その中には、「お互い相手を傷つけないように相手を思いやる行動をする」「一人の意見を否定せず、みんなの意見を聞く」「その言葉がどう相手に伝わるか考える」などがありました。中1はまだ始まったばかり、よい人間関係を築き、これからよいクラス、よい学年をつくっていく上でどんなことを努力するのか、それぞれがしっかりと考える機会になりました。最後に行動宣言を持ってクラスで写真をとり、また、学年全体でも心を一つにして全体写真を撮りました。



高3人権講演 「私の歩んだ道——見えないから見えなかったもの」

NPO法人 ヒカリカナタ基金 理事長 竹内 昌彦先生



目に見えるものが正義とは限らない

1組 江口 暖人

私は今日、竹内昌彦先生の講演を聞いた。私自身、目が見えなくなったらと今までの人生で何度も考えたことがある。しかし、毎回思うのは不便、生きづらいといった否定的なものばかりだった。たしかに竹内さんも生活の中で不便を感じたり、目が見えないだけで、学校でいじめを受けたりした。私が同じ立場だったら生きる気力など無かったと思った。だが竹内さんはいじめっ子に仕返しをしたり、毎日していることは目が見えなくても出来る楽しそうに話したりしていた。「400人に1人、目が見えない人がある。でもその1人を私が引きあてたことで399人の目を守った」と言われたのを聞いて、見た目だけでは人は判断できないということを学んだ。竹内さんをいじめた子も、

障害を持つている人を見てかわいそうと思う人も、見た目だけで決めつけている。竹内さんはたしかに悲しいと思ったこともあると思う。しかし、目が見えないからこそ人を助けることができたし、楽しく暮らしていると話していた。今、見た目だけで判断する世の中になつてしまっていると思う。でも誰かのために何かをするという姿こそが、目には見えない人間の本来の姿だと感じた。

涙を我慢しないといけないぐらいの感動

2組 内田 未海

今回のお話は、涙を我慢しないといけないぐらい感動するものだった。目が見えない方を、駅など歩いているとたまに目にするのがあった。私自身は困っている方に会ったことはないが、もし困っている方を見たら必ず手を差し出すと今

日決めた。障がい者の方への接し方は、必ず気をつけ、何があっても手を差し伸べる。

竹内先生の人生は話を聞くだけでも悲しいし、つらい話で、いじめられてもやり返す、という真の強さを持っていて、いじめられても負けないところが本当にすごいと思う。私だったら負けて泣いてしまっていると思うから。

また、「つらいことはずっと続かない」という言葉が印象に残った。竹内先生が小学2年生になり、良い先生、仲間恵まれてすごく楽しい人生だったんだと嬉しい気持ちになった。

世の中にはまだ「いじめ」があり、「いじめ」によって亡くなってしまいう方もいるが、自殺は本当にしてはいけない。何があっても命を捨ててはいけない。「自分の命には、父・母・祖父母・兄・妹・友達など、自分一人ではない」この言葉は絶対に忘れない！竹内先生は本当にすごい方で、尊敬したい方の一人になった。生き方は人それぞれだが、優しい人、人に喜びをあげられる人になり、生き続けていきたい。自分が今、何不自由なく生きていられることが当たり前だと思わ

ず、一日一日を踏みしめて歩んでいきたいと思った。本当にありがとうございます。

見えていても分からないこと

3組 小野 叶翔

僕は今日竹内先生のお話を聞いて、自分がどれだけ恵まれているのかということを変えて実感しました。

竹内先生はいままで僕が経験したことのないような大変な過去を生きていて、とても強くて優しい人だと思いました。

目が見えなくてもできることがたくさんある。だけど一人ではできないこともあるので、自分たちが進んで助けてあげたいと思った。

命は自分のものだけではなく多くの人に支えられて生きているので、何があっても自分で命を絶つことはあつてはならないと思えた。死ぬくらいなら死ぬ気でやればいつかはつらいことも終わりが来るので、頑張つて生きたいと思った。

「勉強は立派な大人になるためにする」この言葉は、ドラマ「女王の教室」で同じ言葉を聞いたことがあり、やはり勉強は自分のためにするのではないと実感で

きた。これからは日常のいろいろな事に感謝して生きていきたい。

助ける勇氣

4組 矢野 心陽

私は、今回の人権講演で目の見えない人は我慢強くて、努力できる人たちだということ学んだ。目が見える人に比べて見えない人は、慣れるまでに時間がかかるため、慣れるまで努力しなければならぬ。このように考えると、私は目が見えなくなつて、慣れるまで努力し続けることはできないと思った。

人はどこか不自由でも努力して慣れることで、何でもできるようになることを実感した。また、目の見えない人だけではない、どこか不自由な人と会つて、困っていることに気づいたら助けてあげたいと思った。私も実際に会つたことがあり、その時はなかなか話しかける勇氣が出せなかったが、助けてあげることがその人たちにとって、自分が役立つ一つの要因になることを知ることができたので、勇氣を出したいと思った。そして、優しい気持ちをもつてそういう方たちに接してあげる必要があると改めて実感できた。

今回の人権講演で、人の命の大切さを実感することができたので、本当に良い経験になった。

目が見える私たちの心構え

5組 藤井 千夏

竹内先生は、視力を失った代わりに、意志を持った強い心を入れた人であると思った。視力を失うことは、同時に希望をも失ってしまうことであると考えていたが、目が見える人以上に幸福を感じられるのだ。先生はこれまで、ご自身のつらく悲しい経験を、自分の考えを信じて打破する力を持つて乗り越え、障がいのある人たちが暮らしやすい社会を作り上げるために行動されてきたと聞き、私も障がいのある人を特別視するのではなく、対等な人として接していきたいと思った。

私が小学生の時、学校で杖を使って点字ブロックの上を歩いたり、車いすに乗つて移動したりする機会があつた。いつも見えている世界が急に見えなくなると、不安で一歩も進めなかった。目が見えることが当たり前で、目が見えなくなる世界を想像したこともなかったのだ。その時、

腕を握つて大きな声で進む方向を示してくれることで、一歩ずつ前に進むことができたのを覚えている。

今日、竹内先生のお話を聞いて、障がい者だけでなく、困っている人がいたら積極的に声をかけて手助けできるような寛大な心を持った人間になりたいと思つた。そして、誰もが幸福に暮らせる社会を作り上げていきたいと思つた。

差別を乗り越える

6組 田村 優衣

「差別」や「平等」という言葉が生まれ、今となつては差別することは良くないことであると多くの人が思うようになっていく。しかし、竹内先生の小さい頃には、その言葉や概念すらほとんど存在していなかった。目が見えないと差別を受けることが当たり前だった時代を強く生きた竹内さんは本当に心が強い人だと思つた。

いじめられたときも泣いてしまふのではなく、やり返すという大きな行動力や勇氣があることをした。現代にはいじめられて命を自ら絶つ人もいる中で竹内先生は命の大切さについても教えてくださった。「人生の中の一瞬の辛さは永遠とは続



かない。いつかは過ぎる苦しみだから未来を見なさい」と。私は竹内先生の生き方や考え方が素晴らしいと思つた。障がいを理由に諦めないところや、周りの人への感謝を忘れないところなど様々な点で尊敬するところがあつた。

竹内先生の話から私たちにできることや氣を付けるべきことも多く学んだ。障がいを持つ人でも健康者の人でもできないことには時間がかかる。それにいららするのではなく、見守ることを大切に、サポートした方が良ければ助けるようにしようと思つた。

「ベニスの商人」



5月27日、午前に中学生、午後には高校生がそれぞれほつま体育館で、劇団 芸優座による『ベニスの商人』を鑑賞しました。キャスト、スタッフともに素晴らしい演技と演出で、会場が感動に包まれました。

シェイクスピアの思い

中1 山本早羅メイレ

「ベニスの商人」は差別というものが少し目立っていた作品だと思いました。アントーニオや、バサーニオを主人公目線で見ると、3000ダカット対、胸の肉1ポンドは、だいぶ不公平な取引で、最終的にも、シャイロックが敗訴して、アントーニオやバサーニオが勝ち、ハッピーエンドな終わり方でしたが、私的には、シャイロックが主人公としての目線で見ると、また違う終わり方があったのかも…？というふうな考え方もできる作品でした。



当時のイギリスでは、ユダヤ人への偏見がとても強かったそうです。最初の始まってすぐの場面では、シャイロック（ユダヤ人）は敵で、とても不公平な話を持ちかけていましたが、パンフレットなどをよく見ると、「当時迫害されていたユダヤ人の代表として、シャイロックを捉えた」と、書かれています。W. シェイクスピア自身は、特に偏見が強かったわけではなかったそうです。つまり、W. シェイクスピアは、薄々と感じていたユダヤ人が迫害されている雰囲気、後世に残して、どうにか少しでも一人ひとりの心が変わってほしいと思います、この作品を作ったのではないかなと思います。

現代でも、差別、偏見は濃く残っています。私達の中でも、誰かが加害者になり、誰かが被害者になるかもしれません。二度と再発をさせないためにも、一人ひとりの意識が大切だと思います。

楽しく考えさせられる劇

中2 津尾 咲葵

私は、こんなに本格的な劇を初めて観ました。まず、驚いたのが「声」です。マイクを使っているのかもしれないですが、声の通りがよく、聞き取りやすいと思いました。私のイメージしていた劇と180度違い、面白かったです。

次に、背景がきれいですごくいいと思います。奥行や影などから立体感があり、見間違えるほどでした。他にも、舞台の切り替えが早く、幕が閉まって音楽を聞いているといつのまにか幕が上がリ、ライトがついていたような感覚です。音楽の流れ始めがそろっていたり、弱くなったり、強くなったりするタイミングがとても上手くて、何の違和感もなく音楽が流れるので、すごく心地よかったです。さらに役者の舞台での立ち回り、使い方が上手でした。身振り手振りが大きく、セリフなどに合っ



いて、楽しく見ることができました。

私はシェイクスピアが書いたこの話「ベニスの商人」の劇を見て、シャイロックがかわいそうだと思いました。シャイロックはアントーニオに自分の悪口を言われたり、バカにされたりしたのにアントーニオにお金を貸してあげ、利子もつけず、たった一つの約束だけをして、ただお金を期限までに返せば、何もしないという良心的なことをしてあげたのに、裁判で公平な判決をしなくてはならない人は約束を破った人の肩を持ち、自分は悪いことをしていないのに責められる。とても不公平でかわいそうだと思います。ユダヤ人というだけで、こんなことがあったのだらうかと考えさせられるものだと思います。

立場が異なるということ

中3 田邊 瑠華

私はベニスの商人を観て、自分とは違う立場の人について考えることの大切さを知りました。はじめは、悪者とヒーローが分かりやすいと思っていました。ですが、物語が進むにつれて、悪役であるシャイロックは本当は悪なのかを考えるように



なりました。確かに主役のバサーニオやアントーニオにとっては悪者でも、シャイロックは事前に伝えていた法律の範囲内でした。また、シャイロックがユダヤ人だから、という偏見からくるものがあつたというの劇の始め頃には感じました。パンフレットを読んで、当時は本当に差別があつたことを知りました。実際、劇中で悪を決めるなら間違いなくシャイロックを選んだと思います。それでも私がシャイロックだけが悪だと思えなかったのは、シェイクスピアのすごいところです。シャイロックの心情が描かれていたおかげで、考えるきっかけになりました。シャイロックが行っていた「金を貸して利息をとる」という行為が、当時のキリスト教徒にとって悪だということに驚きました。私は「利息をとる」ということに何の疑問も感じませんでした。金を返すことを保証する行為の何がおかしいのかとも思いました。

しかし、やはりシャイロックのやり方が間違っていたのは事実だと思います。立場が異なるだけで考え方も感じ方も違うのだとはっきり感じました。私は今年のほつま祭の劇で、シェイクスピアのように考えさせられるようなものを作れたらいいなと思いました。

正義とは何か

高1 正木 蘭

今回、シェイクスピアの有名な戯曲である『ベニスの商人』を鑑賞した。音楽とダンスを取り入れて表現されることで、物語の重厚さと楽しさが絶妙にミックスされているところがとても印象的だった。物語の中心には、商人アントーニオとユダヤ人の高利貸しシャイロックとの契約があり、アントーニオが友人の巴萨ーニオのために借金をする時、もし返せないのなら「自分の肉を一ポンド差し出す」という条件を飲む場



面はとても緊張感があって、思わず劇の中に引き込まれた。

シャイロックの苦しみや怒りが音楽に乗せて表現されることで、彼が単なる「悪役」ではなく、一人の人間としての悲しみや誇りを持つ人物であることがひしひしと伝わってきた。またポーシャ姫が男装をして裁判をしているところでは、彼女の知恵と勇気がすぐれて見ていてとても気持ち良かった。さらに舞台も衣装もとても豪華で、ベニスのきれいな街並みや裁判所の緊張した雰囲気がいっかりと再現されていてすごいと思った。歌とダンスの場面では、キャスト達のエネルギーが会場全体に伝わってきて、その時代にタイムスリップしたような気持ちになった。この演劇を通して、正義とは何か、人を裁くことの難しさ、愛や友情の大切さについて改めて深く考えさせられた。笑いや感動もありながら、深いテーマを心に残してくれる作品で鑑賞できて本当に良かった。

プロの動きから得られたもの

高2 虫明 悠弥

『ベニスの商人』を観て、人間の力強さ、

ドラマの深さに圧倒された。四百年も前の異国の地が舞台であり、あらすじを見ても、お金の単位が分からなかったり登場人物の名前を覚えられなかったりしたので心配だったが、いざ観てみると非常にテンポが良く、ユーモアと緊張感が絶妙に織り交ぜられていて最後まで飽きることなく作品の世界観に引き込まれた。

私はシャイロックの演技に惹かれた。ただの悪役ではなく長年の孤独と差別を背負った人間としての悲哀がにじんでいて良かった。また、法廷のシーンは非常に緊張感があつた。シャイロックは一人で戦っていて苦しいだろうという変な見方をしたが、たまに見えた狂気じみた演技が良かった。法廷に博士たちが出てくる場面で、声が違うので最初は分からなかったが、途中から彼らは妻たちではないかと思って観ていると、やはりそうだったので、凄い演技だと思った。



私は三度文化祭でキャストを演じたが、プロの人たちの演技は全然違うと思った。キャスト全員がかなりのハイスピードで喋っているはずなのに、何を言っているのかスラスラ聞き取れた。ただゆっくり話しさえすれば良いのではないと学んだ。街で話す内容も、室内や宮廷で何をしているのかも理解できた。

また、ポーシャ役の人の演技が凄いと思った。裁判官のフリをしていたが、博士たちがいなくなったら、きつと令嬢が変装していたと分からなかっただろう。

次に、夫婦のかけ合いが非常に面白かった。言わなくてもよいようなことを言ってしまう夫も、それにキレキレのツッコミをする妻も面白かった。

最後に、この劇でたくさんのかっこいいことができたと思った。もし今年の文化祭で演劇ができるのなら、ぜひ参考にしたいと思った。



巴萨ーニオのように

高3 橋本 隼

『ベニスの商人』は、ウィリアム・シェイクスピア原作の作品である。作中では多くの革新や改革が起こったルネサンス時代での人と人との絆の物語が描かれている。

私が劇を鑑賞する中でも特に強く感銘を受けた場面がある。その場面は巴萨ーニオがポーシャに求婚した際の箱選びの場面である。巴萨ーニオの前には鉛、銀、金の箱があり、三つのうち一つの正しい箱を当てると結婚できるというものだった。彼は最終的に見事正しい箱を当てることができた。彼が正しい箱を選ぶことができたのは、燦々と輝く見てくれだけの金や己の醜さを表す銀に惑わされなかったからだろう。

私はこの場面を見、聞いた瞬間に自分の世界に誘い込まれた。もしこれが自分だったらどうだろうか。金の魅力振り切れただろうか。銀は選ばないだろうか。これらの自問に対する答えは否である。何も考えずに周りがそうだからとルッキズム社会に身を置いていく人間が彼と同じ考えのほざがない。むしろ、逆の人間

性と言える。

巴萨ーニオが私とは程遠い存在なのは言うまでもない。しかし、それを知ることができたら、私は変わろうとすることができるとする。私と巴萨ーニオとの距離は私の成長する伸びしろだ。今回の劇はこれらを私に気づかせてくれた。『ベニスの商人』が語り継がれてきた理由は他にもあるにしろ、このことが大きいだろう。きつとこれから『ベニスの商人』は、人に気づきを与えることができるだろう。しかし、そこには役者というメッセンジャーがいるということと忘れてはいけない。

今回劇をして下さった「劇団 芸優座」のみなさんに私はとても感謝している。私も人によい影響を与えられるような人間に成長していきたい。



一日入学のお知らせ

日時 2025年6月21日(土) 午後(小学生) <終了しました>

7月27日(日) 午前(小学生・中学生)

8月23日(土) 午前(中学生)

場所 金光学園中学・高等学校

対象 小学5・6年生と保護者の方
中学1～3年生と保護者の方
※小学3・4年生対象のプログラムもあります。

内容 授業体験(小学生・中学生)、部活動体験、個別相談会
学校・入試説明会

6/21(土) オープンスクール			
	小学5・6年生対象		小学3・4年生対象
14:00～	受付(正面玄関)		
14:30～15:20	授業体験	学校説明会(120大講義室) ※保護者対象 体験発表	チャレンジコーナー (被服教室)
15:20～16:00	個別相談会、在校生とのフリートーク		

7/27 (日) オープンスクール			
	小学 5・6 年生、中学生対象		小学 3・4 年生対象
8 : 40 ~	受付 (正面玄関)		
9 : 10 ~ 10 : 00	授業体験	学校説明会① (1 2 0 大講義室) ※保護者対象 体験発表	チャレンジコーナー (被服教室)
10 : 20 ~ 11 : 20	部活動体験	学校説明会② (1 2 0 大講義室) ※保護者対象 体験発表	
11 : 30 ~ 11 : 50	個別相談会、生徒発表、在校生・保護者とのフリートーク		

8/23 (土) オープンスクール		
	中学生対象	
8 : 40 ~	受付 (正面玄関)	
9 : 10 ~ 10 : 00	授業体験 入試対策	学校説明会① (120大講義室) ※保護者対象 体験発表
10 : 20 ~ 11 : 20	部活動体験	学校説明会② (120大講義室) ※保護者対象 体験発表
11 : 30 ~ 11 : 50	生徒発表	

※学校紹介、昨年度の入試結果、2026年度入試についてご説明いたします。
※学校説明会①・②は同じ内容で行います。どちらかにご参加ください。
※1日体験入学は、教科によっては定員に限りがあります。先着順で定員になり次第、第2希望とさせていただきますので、お早めにお申し込みください。
※雨天の場合、体育はタオルを用いたフィットネスを予定しておりますので運動のできる服装・体育館シューズ・タオルをご持参ください。

[授業体験]			[部活動体験]		
●6/21 14:30～15:20 ●7/27 9:10～10:00			10:20～11:20(小・中学生7月) 10:20～11:20(中学生8月)		
小学生対象		教科	内 容「タイトル」		
	A	国 語	〔6月〕これであなかも日本語マスター 〔7月〕小・中学生と一緒に日本語プログラミング? 〔7月〕入試対策授業		
	B	社 会	〔6月〕目で見て感じる日本の歴史 〔7月〕さわって感じる日本の歴史 〔7月〕入試対策授業		
	C	数 学	〔6・7月〕謎解きは金光学園で! 〔7月〕入試対策授業		
	D	理 科	〔6・7月〕ためしてなっとく!～電池のしくみ～ 〔7月〕入試対策授業		
	E	英 語	〔6・7月〕Let's have fun in English!		
	F	美 術	〔6・7月〕人物を描くコツ教えます!		
	G	体 育	〔6月〕みんなでティーボール! 〔7月〕みんなでバレーボール! ※運動のできる服装・靴をご持参ください。		
	H	チャレンジコーナー	〔6・7月〕楽しい工作チャレンジ! (途中退場できます)		
中学生対象	I	国 語	〔7月〕小・中学生と一緒に日本語プログラミング? 〔8月〕入試対策授業		
	J	社 会	〔7・8月〕～本能寺の変はどこが変?～ほか。歴史の謎に迫る		
	K	数 学	〔7月〕美しい数学 〔8月〕入試対策授業		
	L	生 物	〔7・8月〕光合成色素を分離しよう		
	M	化 学	〔7・8月〕カラフルなイクラをつくろう		
	N	英 語	〔7月〕英語の感覚を身につけよう! 〔8月〕入試対策授業		
	O	美 術	〔8月〕表現が広がるデッサン体験		
			①新聞部(7月小学生のみ) ②天文部 ③生物部(小学生のみ) ④書道部⑤茶道部⑥音楽部吹奏楽団 ⑦音楽部コーラス⑧放送部 ⑨科学部(7月小学生のみ) ⑩美術部 ⑪ソフトテニス部⑫卓球部⑬野球部 ⑭サッカー部(小学生のみ) ⑮柔道部 ⑯剣道部 ⑰バスケットボール部(高校女子を除く) ⑱バレーボール部(男子のみ、高校は8月のみ) ⑲少林寺拳法部⑳ダンス部㉑陸上競技部 ※小学5・6年生と中学生が対象です。 ※運動部は運動のできる服装で越してください。(例:野球は長スポン) 授業後の着替え場所はあります。 ※道具類/野球部は帽子・グローブ・スパイク・ユニフォームがあればご持参ください。 卓球部・バスケットボール部・バレーボール部・ダンス部は、体育館シューズをご持参ください。 テニス部・卓球部はラケット・サッカー部はスパイク、剣道部は剣道用具等をお持ちでしたらご持参ください。 ※高校野球部の体験は中学3年生のみ。中学1・2年生は見学のみとなります。 ※屋外スポーツは雨天の場合実施できないことがあります。また上記以外の部活動は都合により体験できません。		

[学校・入試説明会]				
月 日	会 場	内容及び時間帯	申込	
5月31日(土)	岡山 ピュアリティまきび(中会議室)	学校説明会(14時半～16時半) ※説明会後、個別相談可。	不要	
6月7日(土)	倉敷 ライフパーク(第5会議室)			
6月14日(土)	福山 県民文化センター(文化交流室Ⅰ)			
6月21日(土) 7月27日(日) 8月23日(土)	金光学園	オープンスクールPARTⅠ・Ⅱ・Ⅲ 「一日入学」下記参照	必要	
9月6日(土)	岡山 ピュアリティまきび(中会議室)	入試説明会(14時半～16時半) ※説明会後、個別相談可。	不要	
9月6日(土)	福山 備後地場産業振興センター(展示室)			
9月13日(土)	倉敷 ライフパーク(視聴覚ホール)			
10月19日(日)	金光学園 ※地域会場(模擬テストのみ) 備後地場産業振興センター	中学入試模擬テスト(9:00～12:30) 中学入試説明会(13:30～15:00) 個別相談会(15:00～16:00)	必要 不要 不要	
11月8日(土)	金光学園 ※地域会場(模擬テストのみ) 備後地場産業振興センター	高校入試模擬テスト(9:00～12:45) 高校入試説明会(13:30～15:00) 個別相談会(15:00～16:00)	必要 不要 不要	

生徒会活動

り上げ、最後に「大切なもの」を合唱しつとりと歌いあげた。恒例の部活動紹介では各部の工夫を凝らした勧誘に1年生は楽しんでた。23日24日の一日入部で1年生は各部を回り、多くの者が入部し、元気に活動している。

5月23日には球技大会を実施し、どの競技も熱戦。クラスの団結を深めた。

6月12日には生徒会総会が開かれた。今年のスローガン「夢 叶 目標に向かって」は生徒一人ひとりが自分の夢を大切にし、全員が一丸となって夢を叶えていこうという思いや、様々なことに全力で取り組み、楽しんでいこうという思いが込められている。今年度の活動計画・予算・昨年度の決算が説明の後に承認された。準備、運営など3役、事務局、評議員の動きは頼もしかった。具体的な方針の中で、今年よりサイクル活動に力を入れていきたいと考えている。早速、ベルマークやテトラパックの回収を呼びかけ、少しずつではあるがその活動の輪が広がってきている。

クラスではほつま祭や体育会に向けて準備が始まっている。

《中・高新聞部》 4月18日に、4月19日

に閉店した金光学園購買の取材を行った。取材内容は今年度のほつま新聞に掲載予定である。

《**天文部**》 新入部員が、中1に2名、高1に2名が加わり活動を進めている。今年は太陽の活動が活発なこともあり、放課後太陽観測を行っている。また、ほつま祭の部展示に向けてそれぞれ調べ学習や展示作品の作製を行っている。今年は天体や惑星の動きを中心に、動画コンテンツを作成しており、新たな展示のスタイルを構築しようとする活動が続いている。

《**生物部**》 新たに中学1年生を2名迎え、生物室で活動している。普段は遙照山や里見川・新川の生物調査、生物飼育での生態観察など、それぞれの興味のある分野に分かれて探究活動を行っている。本年度は2学期に校内合宿を行い、遙照山での生物採集と標本の作製などを2日間かけて行う予定である。

《**美術部**》 世界糖尿病デーイラスト・デザインコンクールに2名、第48回こども絵画コンクールに6名が応募した。ほつま祭に向けて、各々作品を制作中。

《**高美術部**》 高2が1名、高1が6名で活動している。5月31日に開催された全

行 事	対象	日 時	場 所	内 容	申込
PART I ・ II ・ III 一日入学	小	6/21 (土) 14:30～16:00 7/27 (日) 9:10～11:50	金光学園	授業 (6・7・8月) 部活動体験 (7・8月) 学校・入試説明会 個別相談会 他	必要
	中	7/27 (日) 9:10～11:50 8/23 (土) 9:10～11:50			
PART IV 文化祭見学	小 中	9/20・21日 (土・日) 10:00～14:00	金光学園	見学とスタンプラリー 個別相談会	不要
PART V 1日入学	小 5・6	11/15 (土) 11:20～16:00	金光学園	見学・食堂体験・生徒 発表見学・部活動体験	必要

お問い合わせ
 金光学園中学・高等学校 総務課
 住所／〒719-0104 岡山県浅口市金光町古見新田1350
 電話／0865-42-3131 ファックス／0865-42-4787
 E-mail／pub@konkougakuen.net
 ホームページ／<https://www.konkougakuen.net>

合格者数（現役生のみ）
令和7年5月現在

[illegible]

和7年度高校生美術コンクールのキャラクターイラストレーション部門に4名が参加し、高1元廣ゆいが金賞、内山真優、橘高咲風が銀賞を受賞した。また、ほつま祭の部展示に向けてそれぞれが制作に励んだ。

《書道部》 新入部員1名を迎えて、中高合わせて14名で活動している。「第41回成田山全国競書大会」において、高2中村菜々、小寺功祐、小寺希果、寺川理斗、高1下梶碧子、木之瀬由奈、赤澤那奈、長谷川向夏花、中3石井結菜、中2赤澤暖が佳作を受賞した。

《茶道部》 部員数は中高あわせて22人となった。4月19日(土)に高3の部員が碧水庵でお茶会を開催し、高3保護者を招待し、今まで学んできた成果を披露した。5月25日(日)に土佐家旅館で行われた「なんでも市場」では、抹茶ラテ作りを行った。《音楽部吹奏楽団》 4月8日(火)入学式にて「everything for a dream」[You Rise Me Up]「君が代」[学園歌]「20世紀FOXファンファーレ」[オーメンズ・オブ・ラヴ]を演奏した。4月13日(日)金光町民会館にて行われたたんぼまつりが開催され「20世紀FOXファンファーレ」

レ」[オーメンズ・オブ・ラヴ]「ワタリドリ」[シユガーソングとビターステップ]「ロックンロール・キャバレー」[明日はきつといい日になる]を演奏した。4月23日(火)小体育館にて行われた新入生歓迎会で「おジャ魔女カーニバル」を演奏した。4月26日(土)やつなみ保護者会総会にて「20世紀FOXファンファーレ」[オーメンズ・オブ・ラヴ]「ロックンロール・キャバレー」を演奏した。5月3日(土)里庄総合文化ホール「フロイデ」にて第53回定期演奏会を行い、「20世紀FOXファンファーレ」[オーメンズ・オブ・ラヴ]「波を越えてはるかに」[月影の花]「ロックンロール・キャバレー」[ユーロビート・デイズニー・メドレー]「ワタリドリ」[シユガーソングとビターステップ]「ハッピー・ジャムジャム」[かわいだけじゃだめですか?][生命の奇跡]「ソーラン・ファンク」[かつぽれFUNK]「明日はきつといい日になる」[勝利への讃歌]を演奏した。6月1日(日)倉敷市民会館にて、第69回吹奏楽祭が行われ、「20世紀FOXファンファーレ」[オーメンズ・オブ・ラヴ]「ユーロビート・デイズニー・メドレー」を演奏した。

《音楽部コーラス》 2月9日(日)倉敷市芸文館で開催された岡山県ヴォーカルアンサンブルコンテストに女声合唱と男声合唱で2団体参加した。【女声】金賞・優秀賞(全国大会推薦)曲目「糸繰り」「六調」【男声】銅賞 曲目「ころようたえ」3月20日(木)〔22日(土)〕で第18回声楽アンサンブルコンテスト全国大会(福島県福島市)に16名の高校生が出演した。結果は初めての入賞で銅賞を受賞した。曲目「一切朝花」「糸繰り」「六調」3月27日(木)倉敷市芸文館アイシアターで合唱講習会に参加した。7月末に岡山県合同で参加する全国高等学校総合文化祭に向けて、充実した練習となった。4月8日(火)金光学園中学校の入学式で生徒会と共に学園歌を披露した。4月27日(日)里庄総合文化ホールでスプリングコンサート2025を開催した。第1ステージは「鉄腕アトム」「夕焼け」の他に男声、女声合唱などさまざまな披露した。第2ステージは徳田旭昭氏に編曲を依頼した「朝ドラメドレー」全曲を演奏した。第3ステージは企画ステージで、合唱だけでなく劇やカラーガード、チア

リーディングなど楽しいステージにすることができた。

6月5日(木)に校内で卒部式を行った。今期の卒部生は6名であった。

6月7日(土)高梁総合文化会館で行われた岡山県高等学校合唱祭に参加した。新入部員にとつて最初のステージとなった。曲目「ぜんぶ in A」[Mela]「合同曲「あいたくて」「はじまり」

《中放送部》 新入部員4名を迎えた。6月7日に「第42回NHK杯全国中学校放送コンテスト岡山県予選会」に、アナウンス部門で中2松永篤が、朗読部門で中3岡本光里と的場桜花が出場し尽力を尽くした。

《高放送部》 新入部員2名を迎えた。始・終業式や球技大会といった校内行事の司会を務めた。6月15日に「第62回岡山県高等学校放送コンテスト兼第72回NHK杯全国高校放送コンテスト岡山県予選」アナウンスの部に高2初瀬七彩が、朗読の部に高2小平悠羽里が出場し、奮闘した。

《囲碁将棋部》 5月25日に実施された第55回岡山県高等学校将棋選手権大会A級戦、6月22日に実施された第38回岡山県高等学校将棋竜王戦A級戦に2名が参加

した。両大会はスイス式トーナメントで実施され、最高戦績は3勝2敗(9位/40人)で上位大会の出場権は得られなかった。

《科学部》 毎週月曜日と金曜日に、興味を持った内容について調べ、試行錯誤しながら楽しく実験を行った。7月18日に日本原子力文化財団主催の出前授業に参加し、エネルギーの現状と課題について学んだ。現在は、ほつま祭で日頃の活動の成果を披露する為の準備を行っている。《軽音楽部》 ほつま祭のライブに向けて、日々熱心に練習に取り組んでいる。

《文芸部》 高3が1名、高1が1名に中学生の部友1名を加えた3名で活動している。毎月テーマを設けて小説を執筆した。作品は月例集にまとめ、批評会を行うことで互いに研鑽を積んだ。コンクールへの出品やほつま祭での文芸誌「楳杣火」発行に向けて創作活動に励んだ。

《高陸上競技部》【全国大会】○日本陸上競技グランプリ織田記念陸上が広島県で開催され、中国高校選抜として4×100mリレーに伊藤瑞、瀧本椰々子、水流和々花、前田来奈が出場し3位に入

賞した。また、グランプリの部100mに瀧本椰々子が出場し日本のトップ選手との予選を突破してB決勝で6位に入った。

【中国大会】

○中国高校陸上が広島県で開催され、女子400mリレーで水流和々花、瀧本椰々子、板倉葵海、前田来奈が4位。瀧本椰々子が100m5位、200m6位。小野礼翔が200m2位。前田来奈が100m、伊藤瑞が100mハードル、水流和々花が400mハードル、男子400mリレーに四元志優、新中皓也、福田真大、北山航平が参加した。6位までに入賞した女子400mリレー、瀧本椰々子(100m・200m)、小野礼翔(200m)がインターハイへ出場する。

【県大会】

○岡山県高等学校総合体育大会が開催され、小野礼翔が200m3位、100m7位。男子400mリレーで福田真大、新中皓也、四元志優、小野礼翔が5位。瀧本椰々子が200m1位、100m2位。前田来奈が100m5位。伊藤瑞が100mハードルで6位。水流和々花が400mハードル6位。為房百恵が走幅跳で8位。1600mリレーで為房百恵、瀧本椰々子、伊藤瑞、水流和々花が7位に入賞した。

○岡山県陸上競技選手権大会が開催され、女子400mリレーで水流和々花、瀧本椰々子、板倉葵海、前田来奈が1位。1600mリレーで瀧本椰々子、水流和々花、伊藤瑞、爲房百恵が1位。瀧本椰々子が200m1位、100m2位。伊藤瑞が400m5位、100mハードル6位。小野礼翔が200m3位に入賞した。8月に山口県で開催される中国5県陸上競技選手権大会に8位までの入賞者と標準記録突破者が出場する。

《中陸上競技部》

【県大会】

○岡山県中学校混成記録会が開催され、矢部佑晟が110mハードルで1位。榎本航が100mで5位。仁科志帆が100mハードルで6位に入賞した。

○岡山県中学校選手権が開催され、榎本航が200mで8位。矢部佑晟が100mと110mハードルで5位。小幡真子が100mで4位。河田美帆が100mで8位に入賞した。

【地区予選】

○備南西地区予選会が開催され、男子400mリレーで佐藤陸、矢部佑晟、水川嵩大、榎本航が1位。榎本航が3年男子100mで3位、200mで3位。水川嵩大が共通走幅

跳で1位、3年100mで4位。平井慶太が3年1500mで3位。矢部佑晟が2年100と共通110mハードルで1位。佐藤陸が共通走幅跳で4位、1年100mで4位。小川悠真が1年100mで5位。仁科志帆が3年100mと共通100mハードルで2位。小幡真子が1年100mで1位、共通走幅跳で2位。河田美帆が1年100mで2位に入賞した。

《ソフトテニス部》 5月には7名の新入部員を迎え、男子15名・女子6名で今年度の活動をスタートした。5月17日に竹ヶ端運動公園テニスコートで行われた第39回福山市中学生ソフトテニス交歓大会に男子6ペアが出場し、中野・木曾ペアが予選トーナメント敗退、奥野・田中、金藤・小山、川野・上松ペアが予選リーグ1勝1敗で決勝トーナメント1回戦敗退、岡森・鳴本ペアは予選リーグ2勝でベスト8、田村・仁科陸ペアは予選リーグ2勝でベスト4に入った。6月14・15日に笠岡総合公園テニスコートで行われた備南西地区総体では、男子団体戦に田村・仁科陸・川野・鳴本・奥野・小山・金藤・木曾が出場し、予選リーグで金浦中学校に2―1で勝利、井原中学校に1―2で敗退し、決勝トーナメント進出を

果たせなかった。男子個人戦には6ペアが出場し、金藤・木曾、仁科嘉・上松、中野・田中ペアが初戦敗退、川野・鳴本、奥野・小山、田村・仁科ペアが2回戦敗退であった。

女子は現在中1のみで活動している。今後試合に出るために日々練習に励んでいる。

《高ソフトテニス部》

4月19日に水島緑地福田公園、倉敷運動公園テニスコートで行われた岡山県春季高等学校ソフトテニス選手権大会では、早野・桑田、生藤・板野ペアが初戦で敗退した。4月26日に玉島の森テニスコートで行われた全日本・中国高等学校ソフトテニス選手権大会（ダブルス）の備西地区予選会に7ペアが出場し、川合・村上、生藤・板野ペアが初戦敗退、黒川・山下、早野・桑田、原田・加治、高野・圓福寺ペアが2回戦で敗退、青木・石岡ペアが3回戦で敗退し、敗者復活戦に出場したが2回戦で敗れ県大会への出場権獲得はならなかった。6月7日に備前テニスセンターで行われた全日本・中国高等学校ソフトテニス選手権大会（団体）の岡山県予選会では高梁高校に1―2で初戦敗退であった。高3はこ

こで引退となった。6月21日に水島緑地福田公園テニスコートで行われた国民体育大会岡山県選手少年（男女）1次選考会では、青木・圓福寺、黒川・石岡ペアが出場したが、どちらも初戦敗退であった。

《中卓球部》

3月9日にニッタク杯総社オープンカデット卓球大会に参加した。男子団体では予選リーグで玉島北Bに2―1、総社西Cに2―1、旭東Aに0―2で決勝トーナメントに進み、1回戦で真備東Aに2―1で勝ち、2回戦で総社西Aに0―2で敗れベスト16であった。

4月6日にチェリールカップテニスオープン大会に参加した。男子団体ではAチームは予選リーグで1勝1敗、2位リーグで2敗、順位決定リーグで2敗であった。Bチームは予選リーグで2敗、3位リーグで3敗、順位決定リーグで3敗であった。

5月3、4日に岡山近府県卓球選手権大会に参加した。男子団体では予選リーグで大森クラブに3―1、鳥取県選抜に2―3、高松中に3―2で2位トーナメントに進み、1回戦で伊丹松崎中に0―3で敗れた。女子団体では予選リーグでTS平松に0―3、ミキハウスJSSCに

0―3、真備東中に0―3、高島中に0―3で4・5位トーナメントで新田中に1―3で敗れた。男子個人では大橋（L3）、藤井（L3）、浅野（L2）が2回戦に進出した。女子個人では板野（L3）、渡邊（L3）が2回戦に進出した。

6月8日に井原オープン個人戦に参加した。男子1部では予選リーグで大橋、藤井、宮田（L3）が2位で通過し、順位決定リーグで宮田が31位に入った。男子2部では高橋（L2）が優勝、船尾（L3）がベスト4に入った。女子1部では予選リーグで板野が1位、渡邊が2位で通過した。

6月15、16日に備南西地区総体に出場した。男子団体では予選リーグで4勝2敗、2次リーグで2勝したが、最終リーグで1敗し5位となった。女子団体では予選リーグで2勝2敗、2次リーグで2敗し7位となった。男子個人ではベスト32に大橋と千葉（L1）が入った。女子個人では板野がベスト16、鈴木（L3）と渡邊がベスト32に入った。

《高卓球部》 4月6日井原チェリールカップの高校男子の部において、Aチーム（U2安藤・岸・藤井）が第3位に入賞、B

チーム（U2小谷、U1清水・東・松岡）がベスト8に進出した。

4月26日、27日岡山近府県卓球大会に参加した。

5月6日、7日県総体シングルスベスト32までダブルスベスト8までにおいて、男子シングルスでは安藤がベスト32、藤井がベスト64、女子シングルスでは藤原がベスト32に進出した。男子ダブルスでは、安藤・藤井組がベスト8に進出すると同時に、6月21日から山口県下関市で開催される中国高等学校卓球選手権への出場権を獲得した。

5月25日県総体ダブルスベスト8リーグに安藤・藤井組が出場し、第8位のランキング表彰を受けた。

5月31日、6月1日県総体学校対抗にて、男子が第9、10位となり秋季大会のシード権を獲得、女子も初戦敗退ではあったが強豪相手に健闘した。

6月8日尾道市オープン個人戦にて、安藤・藤井がともにベスト8に進出した。

6月21日、23日中国高等学校卓球選手権男子ダブルスの部に安藤・藤井組が出場し、1回戦は山口県代表の防府高校のペアに見事3―1で勝利、2回戦は広島

県代表の呉青山高校のベアに1―3で敗れた。本人たちにとって初の上級大会出場で緊張感もある中で試合ができ、勝利も収めることができて、大変貴重な経験となった。

《中野球部》 4月29日、5月3日にどんぐり球場で行われた第20回笠岡東ライオンズクラブ杯では、1回戦昨秋県3位の木之子中学校に3―2で勝利し、準決勝では金浦・矢掛・新吉・笠岡西・笠岡東中学校に10―0で勝利し、決勝では高屋・美星中学校に8―0で勝利し、3年ぶり7度目の優勝を飾った。最優秀選手賞に中3の田中幸太郎くんが選出された。

6月15・16日にどんぐり球場で行われた令和7年度中体連備南西地区総体では、一回戦で高屋・美星中学校に15―0で勝利し、代表決定戦では、金浦・矢掛・新吉・笠岡西・笠岡東中学校に8―1で勝利し、2年ぶり15度目の県大会出場を果たした。

《高野球部》 4月15日に開幕した春季岡山県高等学校野球大会西部地区予選は笠岡商業高校に6対1で勝利し、県大会出場の権利を獲得しました。

4月26日から令和7年度春季岡山県高

等学校野球大会が行われ、1回戦で就実高校に3対2（延長10回）で敗れました。7月12日より第107回全国高等学校野球選手権岡山大会が開催され、一回戦で津山東高校と対戦します。

《高サッカー部》 2月11日に練習試合を行い、対おかやま山陽（30分×3）（0―0）（1―0）（0―0）。3月9日に練習試合を行い、対川崎医療福祉大学（0―4）（3―2）（0―5）、対山陽学園（0―1）。

3月16日の第15回浅口カップ大会では、銀河学院、彦根総合と対戦した。3月30日・31日には神原スポーツ公園、神原荘で高梁高校との練習試合を含む合宿を行った。4月26日・27日に行われた備中支部総体備北備西大会では、対井原矢掛笠岡工業（5―0）、対笠岡商業（1―6）、対玉島商業（6―2）、対総社（0―1）という結果であった。高円宮杯U―18サッカーリーグ2025 OKAYAMA チャレンジリーグの結果は次の通りである。5月3日、対西大寺（0―1）、B戦（負け）、5月4日、対理大B（3―0）、B戦（0―0）であった。5月17日の県総体2回戦は、対総社南（1―2）、であった。

《柔道部》 今年度柔道部では新たに中1が2名、中2が1名、高2が5名入部し、計21名で活動をしている。

4月19、20日に岡山武道館で、第72回中国高等学校柔道大会岡山県予選会が行われた。男子団体戦では予選リーグでおかやま山陽高校と県立津山工業高校に敗れた。男子個人戦では計4名が出場し、100kg級で高3浦上千歳が第6位になるなど、それぞれが善戦した。

5月31日、6月1日に岡山武道館で、第64回岡山県高等学校総合体育大会柔道競技が行われた。男子団体戦では県立勝間田高校に勝ち、続く準決勝で関西高校に敗れた。男子個人戦では計5名が出場し、60kg級で高3小野叶翔がベスト8になるなど、それぞれが善戦した。

6月14日に里庄武道館で、令和7年度岡山県中学校体育連盟備南西地区総合体育大会柔道競技が行われた。男子団体戦では笠岡彰善館と里庄柔道教室に敗れた。男女個人戦では計8名が出場し、それぞれが善戦した。男子団体戦と個人戦で計7名が県総体への出場権を得た。

《中剣道部》 4月に新入部員1名を迎え、男子4名、女子1名で元気に活動している。

《備南西地区大会》 6月14日（土）に笠岡総合体育館サブアリーナで開催され、男子個人試合に2年の高島蒼希、藤田耀広、中桐大地が出場した。高島、中桐は初戦敗退。藤田は3回戦敗退でベスト8となり、県大会出場権を得た。男子団体試合は初戦で敗退し、第3位。

《高剣道部》 《中国大会予選》 4月26日（土）・27日（日）に和気町体育館で開催され、男子個人試合に3年の藤井大輔、根津翔真が出場した。藤井は2回戦で根津は初戦で敗退した。

《県総体》 5月31日（土）・6月1日（日）に笠岡総合体育館で開催され、男子個人試合に藤井、根津が出場した。藤井は3回戦で敗退し、ベスト32。根津は初戦で敗退した。

《中高剣道部》 3月31日、長年にわたり本校剣道教育並びに剣道部の発展にご尽力いただいた、新谷忠彦先生がご退職された。この場を借りて深くお礼申し上げます。

《中男子バスケットボール》 6月14、15日に備南西地区総合体育大会（バスケットボール競技の部）が矢掛中学校で行われた。準決勝では、鴨方中学校と対戦し

35―78で勝利、続く決勝戦では、里庄中学校と対戦し47―46で惜しくも敗れ、準優勝となり県大会への出場を逃した。この大会をもつて中学3年生は中学での部活動を引退となったが、3年間で培った力を発揮できた大会となった。

《中女子バスケットボール部》 6月14、15日に備南西地区総合体育大会（バスケットボール競技の部）が矢掛町立矢掛中学校で行われた。1回戦、井原中学校と対戦し、25―52で勝利し、続く準決勝では、鴨方中学校と対戦し、58―30で敗退した。中学3年生にとっては最後の大会になるが、3年間培ってきた力を発揮できた大会となった。

《高男子バスケットボール部》 5月10日、11日に令和7年度備中地区総体が行われた。ブロック決勝では、おかやま山陽高校と対戦し、勝利した。この結果、5月23日から行われる県大会への出場が決まった。

5月23日から2週にわたり第64回岡山県高等学校総合体育大会バスケットボール競技の部がジップアリーナ等で開催された。一回戦で一宮高校と対戦し、勝利した。ベスト8をかけて、倉敷青陵高校

と対戦するが、敗れ今大会をベスト16で終えた。今大会をもつて、高校3年生は引退となるが、最上級生としてチームを引っ張ってくれた。

《高女子バスケットボール部》 4月26日（土）・27日（日）に、第5回OBA U―18バスケットボールリーグに出場し、高1も含めて新体制でリーグ戦に挑んだ。5月10日（土）に、令和7年度備中地区総体予選会に出場し、初戦で倉敷中央高校に77対5で敗れた。

《中男子バレーボール部》 令和7年度前半の戦績。6月の備南西地区大会を優勝。7月の県大会に出場予定。

《高少林寺拳法部》 ○岡山県総体に出場した。男子単独演武で高3西山和志が2位、男子組演武で高3渡邊康稀・天野蓮太郎が3位、女子組演武で高2井藤ひより・高1岡部倅歩が1位、高1小林佳未・白神凜が3位、女子団体演武で優勝した。

○中国選手権大会（広島県福山市）に出場した。男子単独演武で西山和志が3位、男子組演武で渡邊康稀・天野蓮太郎が6位、女子組演武で井藤ひより・岡部倅歩が2位、小林佳未・白神凜が5位、女子

団体演武が2位に入賞した。

○岡山県少林寺拳法大会に出場した。男子単独演武で天野蓮太郎が2位に入賞した。

《中少林寺拳法部》

○岡山県中学生大会に出場した。男子単独演武で中2前川章海が2位、中3吉田喬が4位、男子組演武で中3古川凜一・牧野大治が2位、男子団体演武で2位、女子単独演武で中3三村心都が3位、女子組演武で中3高野日菜乃・山本梨央が2位、女子団体演武が優勝した。

○岡山県少林寺拳法大会に出場した。男子組演武で古川凜一・牧野大治が優勝、女子組演武で高野日菜乃・山本梨央が優勝した。

《ラグビー部》 現在は、選手一名、マネージャー一名の二名だけの部員であるが、放課後に練習に励んでいる。

《木綿崎ボランティア部》 昨年度に引き続き、毎週土曜日に、わかばプロジェクト主催の「土曜スクール」で小学生の活動補助ボランティアを行っている。

5月16日に、玉島警察署からの依頼を受け、交通事故で犠牲になったけんちゃんが残したアサガオの種を、やつなみ広

場の花壇に植えた。交通事故が1件でも少なくなるよう、願いを込めながら、部員が交代で水やりをしながら花が咲くのを楽しみにしている。

また、5月中旬から大和被服株式会社の協力を得て、消防服のリメイク活動を始めた。SDGsの取り組みを意識しながら、廃棄される消防服についての特徴を理解し、部員それぞれのアイデアをもとに製作を進めている。6月5日には、大和被服株式会社専務の方や生産事業部の方など4名に来校いただき、会社の事業内容や消防服の特徴、リメイクへの思いなどの講義を受けた後、部員のリメイク作品製作へのアドバイスもいただいた。

《新体操》 高3内田未海さんが、6月8日に行われた岡山県高等学校総合体育大会 新体操競技の部で、個人競技総合第6位になり、1週間後に行われた中国高等学校新体操競技選手権大会に岡山県代表として出場した。高校3年間で目標だった中国大会出場を果たすことができた。

《水泳》 6月1日に行われた第53回岡山県高等学校水泳競技大会において、高2田口大輝くんがバタフライ100mで第5位、バタフライ100mで第5位、高1中原桃子

さんが自由形50mで第16位、背泳ぎ100mで第7位となった。また、6月21・22日に行われた岡山県高等学校総合体育大会水泳競技の部では、高2田口大輝くんがバタフライ200mで第3位、バタフライ100mで第4位、高1中原桃子さんが個人メドレー200mで第6位となり、7月に鳥取県で行われる中国高等学校選手権水泳競技大会への出場権を獲得した。

学園だより

第7回ラッドフォード・カレッジ姉妹校交流
第10回イギリス短期語学研修 3月19日
29日にラッドフォード・カレッジ第7回姉妹校交流（生徒13名）が、3月19日・4月2日に第10回イギリス短期語学研修（生徒15名）が実施された。海外ならではの異文化交流を体験し無事に帰国した。4月5日に両コースとも本部参拝を行った。

出校日 4月5日、在校生が出校し、新クラス発表の後、教室移動を行った。

入学式

4月8日、中学は午前中に、高校は午後からはつま体育館で行い、それぞれ101名、151名の新生が希望に胸を膨らませて入学した。

始業式

4月9日、中高合同で1学期始業式がほぼつま体育館で行われた。校長式辞、留學生紹介の後、在校生を代表して高3爲房百恵さんから歓迎の言葉、また新生を代表して中1の大橋実結さんから挨拶がそれぞれあった。

◇新生代表挨拶（中1 大橋 実結）

暖かな春の訪れと共に、私たち中学校101名、高等学校151名は、金光学園の生徒として新たな一歩を踏み出します。

真新しい制服に身をつつみ、これから始まる学園生活に対する期待や希望に胸を膨らませていきます。勉強、部活動、学校行事に仲間と共に何事も積極的に取り組んでいこうと思います。また、新たな経験をしていくにあたって先生方、先輩方のお力をお借りすると思います。その時はどうぞ温かく、時には厳しくご指導くださいますようお願いいたします。

私たち新生一同は、歴史と伝統ある金光学園の生徒として誇りを持ち「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をた

いせつに」この言葉を胸に実りある学園生活を送っていききたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

新生本部参拝

4月11日、雨の中中1と高1が金光教本部に参拝し、これからの学園生活の立ち行きをお願いした。その後5月13日に中1は学校で、高1は境内でクラス毎の記念写真を撮影した。

◇お届け（高1 白神 凜）

4月8日に中学校新生101名、高等学校新生151名と留學生1名、合計152名は多くの方々のご祝福を受け、金光学園に無事入学させて頂くことができました。どうぞ皆様にお礼を申し上げます。

私たちは自らの意志で、勉強やスポーツに励むことを目的として金光学園に進学しました。金光学園の一員として、互いに助け合い、支え合いながら一日一日を大切にして充実した学園生活を送ることを誓い



ます。

これから始まる新しい生活に対して、期待と不安が入り混じっています。学園の合言葉「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」を心にとどめ先生方、家族、友人など多くの人に支えて頂きながら、乗り越えていきたいと思っています。また、4月18、19日には中1がフレンドシップ2デイを行い、4月14日には高1が一日旅行を行います。全員が所期の目的を達成し、安全に過ごせるようよろしくお願いいたします。

◇教主金光様のおことば

皆さま、おめでとうございます。ここまでお育て頂いたお礼を申し上げます。ここからお世話になるすべての人や物に感謝の心をもって、おかげを頂いていかれますよう、お祈りいたします。よくお参りください。

街頭交通指導

4月11日から17日まで教員が通学路に立ち、交通安全・交通マナーについての指導を行った。

なんでも相談室

毎週水曜日に午前10時から午後5時まで第1相談室で開設され、学校カウンセラーがカウンセリング・助言・支援を行っている。

検尿 4月11・12日に検尿を実施した。

高1一日旅行 4月14日、高1は一日旅行として「NEWレオワールド」と「琴平・中野うどん学校」に赴き、うどん打ち体験などを通して親睦を深めた。

総合検診 中学生は4月16日に、高校生は4月17日に内科・歯科を含めた総合検診を行った。

高校生徒会役員選挙 4月18日、高校はつま生徒会役員選挙が行われた。開票の結果、会長に宮田直拓くん（高2）、副会長に縄椎瑛太くん（高2）、小林あかりさん（高2）が決定した。

中1KGフレンドシップ2Days

4月18日・19日、中1がKGフレンドシップ2Daysを行った。宿泊はせず18日は神勝寺やみろくの里に行き、19日は集団ゲーム、学園歌コンクール、安全教室などを通じ親睦を深め、集団生活の規律を学んだ。

心音心電図・血圧 4月21日に中1、22日に高1を対象に実施した。

中学新入生歓迎会 4月22日に今年度から小体育館で開催され、新入生に向けて上級生が部活動の紹介などを行った。

一日入部 4月23日・24日に行われ、

新入生が部活動を見学・体験した。

高校春季球技大会 4月25日、天候にも恵まれ高2・高3がソフトボール、フットサル、ドッジボール、テニスボールで熱鬧した。

やつなみ保護者会総会 4月26日、1限に授業参観、2限に学級会、3、4限に総会と講演が行われた。講演は前岡山大学教師教育開発センター特任教授、文谷元信先生の「ご縁に導かれて～親として、教師として～」であった。

中1人権教育 5月9日、21日に中1が人権教育を行った。NHKの「いじめをノックアウト」の動画を見て意見交換を行い、「いじめをノックアウト宣言」を作成した。

中学夏季球技大会 5月23日の午前中、夏季球技大会が行われた。バスケットボール、ドッジボール、ソフトボール、ディール、フットサル、フットベースボールに分かれ、熱鬧した。

中3人権講演 5月23日、中3は高66回卒業生上全悠さんによる講演「障がい者問題を考える」を聴き、人権問題について学んだ。

教育実習 5月26日から6月14日まで

の期間、卒業生など学園にゆかりのある6名が3週間の実習を行った。

芸術鑑賞会 5月27日、午前中学生、午後高校生がそれぞれほつま体育館で、劇団 芸優座による「ベニスの商人」を観劇した。キャスト・スタッフともに素晴らしい演出で会場は感動に包まれた。

塾対象説明会 5月28日、塾の先生を対象に学校説明会を開催した。金光学園の学習や行事、部活動などについて説明した。午前中には授業公開も行った。

土曜日授業 1学期は5月28日（水）、6月5日（木）に土曜日授業を実施した。

高3人権教育 5月30日、高3はNPO法人ヒカリカナタ基金理事長の竹内昌彦先生による講演「私の歩んだ道～見えないから見えたもの」を聴き、笑いあり涙ありのお話の中から今後の人生への示唆を受けた。

中3性教育 5月30日と6月20日、中3は男女交際や性感染症、避妊についての学習を行った。

高生徒会総会 6月6日、ほつま体育館に全校生徒が集合して開催された。生徒会執行部・事務局や各種委員会の基本方針、令和7年度予算などが承認された。

耳鼻科・眼科検診 6月12日、中1と

中3（眼科のみ）を対象に実施した。6月13日、高1と高3（眼科のみ）を対象に実施した。

中学生徒会総会 6月13日、小体育館に全校生徒が集合して開催された。生徒会や常任委員の基本方針、令和7年度予算などが承認された。

高2キャリア研修 6月10日・13日、関東（東京）と沖縄の2コースに分かれて実施した。2コースとも文化・自然に触れると共に、キャリア教育体験を通じて見聞を深めた。（紀行文は次号に掲載）

中2性教育 6月12日、小体育館にて、かみむらウイメンズクリニックの上村茂仁先生の講演を、保護者と共に聞いた。

高3読書会 6月13日、高3が読書会を行った。各人が希望した本ごとにグループに分かれ、お互いの意見を交換した。

中1性教育 6月17日と6月27日、中1が20大講義室で二次成長のDVDを見てアンケートに回答し、まとめた通信で各クラス振り返り、思春期の心や身体の変化を知り、互いに尊重し合う生き方について考えた。

中3リベラルアーツ研修 6月19日、

中3が「リベラルアーツ研修」として、

午前にガイド案内による造山古墳・千足古墳の見学、午後に美観地区にて自然史博物館・大原美術館・MASCの見学を行い、将来に向けての知見を広げた。

オープンスクール一日体験入学パートI（小学生対象）

6月21日、午後から行われた一日入学では、授業体験や説明会が行われた。総勢約200名の参加者が来校し、賑やかに行われた。

高2理系探究中間発表会

6月25日、7月9日、7月16日の3日に渡り、高2の総合進学理系クラス全員と、特別進学理系クラス探究Ⅱ選択者が中間発表会を行った。各グループは中間発表を行い、オンラインもしくは対面で助言者から指導、助言をいただいた。

高2性教育 7月7日、高2は助産師

の内尾京子先生（公設国際貢献大学校）の「責任ある性」と題した講演を聴いた。

中3読書会 7月11日、中3が読書会を行った。各人が希望した本ごとにグループに分かれ、お互いの意見を交換した。

高2進路講演 7月11日、高2はリクルートの清田直希氏による、オープンキャ

ンパスに向けての心構えや準備などの講演を聴き、高2の夏休みの過ごし方について学んだ。

中2広島平和宿泊研修 7月12日・13日、中2は、泊二日の広島平和研修を行った。初日は、ピースバディと共にピースワークツアーに取り組み、午後は金光教平和集会に参加し、夜には「夜の集い」が行われた。2日目は千羽鶴の献納、平和資料館の見学を行い、平和の大切さを深く学んだ。

1学期終業式 7月26日、ほつま体育館改修工事のため、オンラインで1学期終業式が行われた。

お慶び 日笠陽介先生には5月23日に結婚、お慶び申し上げます。

お悔やみ 早野正樹さん（高3保護者）には6月3日ご逝去、謹んでお悔やみ申し上げます。

教室の窓から

「この幸せな場所によろこ。デイズニールンドはあなたの国です。ここは、大人が過去の楽しい日々を再び取り戻し、若者が未来の挑戦に思いを馳せるところ。」(能登路雅子著「デイズニールンド」という聖地」より)

高2の修学旅行が今年度から「キャリア研修」と名称を変え、内容も大きく変更された。私は関東方面コースに引率者として参加した。政治・経済・文化の中心地ならではの様々な体験をすることができた。中でも生徒が楽しみにしていたのは、デイズニールンドであらう。

冒頭に引用したのは、一九五五年、デイズニールンド開園式における、創始者ウォルト・ディズニールの式辞の一節である。この本によれば、デイズニールンドが作ろうとしたのは子供相手の遊園地ではなかった。あらゆる年齢の子供のための「地上で一番幸せな場所」であった。

実際、ただの遊園地ではなかった。園内を歩き、次々とアトラクションを体験している間、私自身も童心にかえって楽しんでた。冒険の旅に心を躍らせ、危険に遭遇するとハラハラし、

無事に帰還して安堵する。テクノロジーの進歩はあるのだろうが、多くのアトラクションはウォルト・ディズニールンドが制作に関わった頃から内容が変わっておらず、七十年もの間、来場者を楽しませ続けていることに驚いた。

このようなユートピアを作り上げたデイズニールンドであるが、実は彼には子供時代と呼べるような屈託のない日々がなかったというのかもしれない。彼は十歳頃から父の仕事を手伝い、毎日朝三時半に起床して新聞配達をしていた。昼間も新聞の立ち売りや菓子屋の掃除仕事などをし、四六時中働いていたそう。子供時代の分には欲しいと思っていながら、手に入れることができなかったものすべてを、僕はデイズニールンドに盛りこんだ」とは後年のデイズニールの言葉である。

現代の日本の若者たちには、昭和の時代にあつたような小さな冒険にあふれた子供時代は存在したのだろうか。外で遊ぶことは危険だと制限され、家の中で友達とゲーム機で遊ぶ。そもそも放課後は習い事がいっぱいいて遊ぶ時間がなかった人も、すべての子供や大人たちにとって、デイズニールンドは清潔で安全に子供時代を楽しめる恰好の場所であるのに違いない。

編集後記

NHKスペシャル「超・進化論 生命40億年 地球のルーツに迫る」で昆虫の特集を行った回がありました。昆虫について目からうろこの情報があふれていて大変面白かったです。特に印象深かったのが、フランスとスペインの国境にまたがる標高2300メートルのピレネー山脈を越え、最長2000キロを移動する渡り虫「ハナアブ」の紹介でした。体長数ミリ程度、約40億匹ものハナアブの大移動は、受粉の手助けを行ったり、他の虫や鳥の食べ物になったりすることで、ヨーロッパの農業や生態系の多様性を支えている、というダイナミックな展開に胸が熱くなりました。自分たちが知覚していない小さなことやささやかなことが実は、世界という大きな揺りかごを支えているのだと思うと、勇気が湧いてきてどんなことにも手を抜かず頑張ろう、という気持ちになります。

(参考) H P gendaimedia/articles/107439)

令和7年7月16日印刷
7月26日発行

編集者

金光学園やつなみ保護者会
やつなみ編集部

印刷所

倉敷市船穂町船穂二〇九五一二一
玉島活版所

発行所

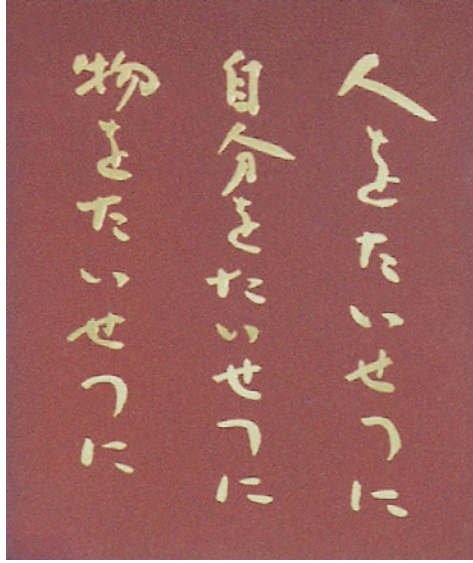
浅口市金光町占見新田一三五〇
金光学園内
金光学園やつなみ保護者会

中・新入生歓迎会



グローバル研修





◎ほつま = 秀真

非常に優れ整い備わっていることの意。

「日本という国」の古異名の一つ。

創立後、生徒会や冊子の名に使用。

ほつま体育館、ほつま祭などで使われる。

◎やつなみ = 八波

どこまでもひろがり栄えゆく願いをこめる。

金光教・学園・中学・高校の徽章のふちどり。

P T A機関誌創刊当時、会員から公募してつけた。



homepage



facebook



Instagram

人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに

<https://www.konkougakuen.net>

E-mail info@konkougakuen.net